

岡山短期大学

(令和3年度)

実務経験のある教員による授業科目の配置を公表します。

◎実務経験のある教員による授業科目の単位数

| 学部名 | 学科名 | 実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 |
|-----|--------|-------------------------------|---------------------|----------|----|-------------|
| | | 全学 共通 科目 | 学部 等 共通 科目 | 専門 科目 | 合計 | |
| | 幼児教育学科 | 0 | 0 | 36 | 36 | 7 |

◎実務経験のある教員及び主な実務経験

| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 | 設置基準上の必要専任教員数 |
|----------------------|---------------|----|----|----|---------------|
| 浦上博文 鈴木久子 大賀恵子 | 関野智子 山本婦佐江 | | | 5名 | 11名 |

◎実務経験のある教員による授業科目として計上した授業科目の一覧
 <専門科目>

| | 授業科目 | 必修 | 選択 | 計 | 担当教員 |
|------------------|---------------------|----|----|------|-------------------------------|
| 幼児教育学科 専門教育科目 | 教育心理学 | 2 | | 2 | 大賀恵子 |
| | 特別支援の方法・ 保育と理解 | | 2 | 2 | 鈴木久子 大賀恵子 |
| | 発達心理学Ⅰ | | 2 | 2 | 大賀恵子 |
| | 臨床心理学 (A) | | 1 | 1 | 鈴木久子 |
| | 社会心理学 | | 2 | 2 | 鈴木久子 |
| | 幼児理解及び保育 相談 | | 2 | 2 | 大賀恵子 |
| | 保育・教職実践演 習 | | 2 | 2 | 浦上博文 都田修兵 鈴木久子 |
| | 子ども家庭支援論 | | 2 | 2 | 大賀恵子 |
| | 乳児保育Ⅰ | | 2 | 2 | 山本婦佐江 |
| | 乳児保育Ⅱ | | 1 | 1 | 山本婦佐江 |
| | 保育実習Ⅰ | | 4 | 4 | 大賀恵子 山本婦佐江 |
| | 保育実習指導Ⅰ | | 2 | 2 | 大賀恵子 山本婦佐江 吉田升 |
| | 保育実習指導Ⅱ | | 1 | 1 | 大賀恵子 山本婦佐江 吉田升 |
| | 教育課程論及び教 育方法・技術論 | 2 | | 2 | 都田修兵 山本婦佐江 原田俊孝 福野裕美 |
| | 幼児と環境 | 1 | | 1 | 鈴木久子 |
| | 「幼児と環境」の 指導法 | 2 | | 2 | 鈴木久子 |
| | 幼児と言葉 | 1 | | 1 | 浦上博文 |
| | 「幼児と言葉」の 指導法 | 2 | | 2 | 浦上博文 |
| | 幼児と表現Ⅱ | 1 | | 1 | 関野智子 |
| | 「幼児と表現Ⅱ」 の指導法 | 1 | | 1 | 関野智子 |
| 幼児と図画工作 | | 1 | 1 | 関野智子 | |
| 合計 | 12 | 24 | 36 | | |

令和3年度教育計画

| | | | | | | | |
|--|--|--|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 教育心理学 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 大賀 恵子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail : ohga@owc.ac.jp、OH : 土曜 2 限 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</p> <p>教育心理学の意義・目的、内容・領域について、子どもの姿や保育現場に結びつけながら子どもの心理や行動を理解し、適切な教育的活動ができる基礎的な知見や方法を概観する。それらの知識をもとに、保育者として乳幼児期の子どもたちへの働きかけの大切さを学び、教育における問題を解決に導く効果的な教育的対応及び保育実践のできる保育者の育成を目指す。次の3項目の習得を目標とする。</p> <p>①子どもの生活や遊びを通じた学習の過程等、保育上必要かつ有効な教育心理学の基本的事項 ②子どもの心身の発達及び発達に即した教育的対応並びに保育実践 ③保護者への育児支援まで含めた保育における発達援助</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる3項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習効果：保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるような人間関係力を養う。</p> | | | | | | |
| | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育心理学の知識として不可欠なものについては講義形式で行う。 ・ 必要に応じて補充プリントを配布する。 ・ 授業内容の理解度確認のために、授業中に論述課題を実施する。 | | | | | |
| 予習・復習 | <p>予習：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業後に復習を求め、そのポイントをまとめる。 各回 90 分程度の学習時間を確保すること。</p> | | | | | | |
| テキスト | <p>教育心理学—保育者をめざす人へ— 石井正子・松尾直博編著 樹村房</p> | | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>専門的学習成果</p> <p>評価配分は 90 点で、期末試験 (80 点) と論述課題 (10 点) で測る。また、90 点は以下に示した 3 つの専門的学習成果について、おおよそ「① : ② : ③ = 30 点 : 30 点 : 30 点」の比重をおく。</p> <p>①学習過程等、保育上必要かつ有効な教育心理学の基本的事項を理解する。 ②発達及び発達に即した教育的対応並びに保育実践について理解する。 ③保護者への育児支援まで含めた発達援助の能力を養う。</p> <p>汎用的学習成果</p> <p>評価配分は 10 点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。 以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 90 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点、合計 100 点満点で最終評価を行う。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等 よくわかる教育心理学 中澤 潤編 ミネルヴァ書房 2011</p> | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|---|
| <p>1 回</p> | <p><オリエンテーション></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 本科目の授業スケジュールを確認し、教育心理学についての学びと保育の関連性を理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。 ・第1章 保育と教育心理学 (1.保育者の役割と教育心理学/2.乳幼児期の学習と教育) について理解する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の概要について理解し、保育と教育心理学のかかわり、乳幼児期の学習と教育の必要性が説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>2 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程①></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 幼児や児童の心身の発達を理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・第1章 保育と教育心理学 (3.さまざまな児童観と教育観/2.幼稚園や保育所における保育) について理解する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな児童観と教育観、幼稚園や保育所における保育について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>3 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児や児童の発達・及び学習の過程について基礎的な知識を身につける。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・第2章 発達と教育 (1.発達を規定するもの/2.発達段階と発達課題) について理解する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・発達を規定するもの、発達段階と発達課題について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>4 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程③></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期から各時期における運動・言語・認知の発達・社会性について理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・第2章 発達と教育 (3.思考の発達と教育/4.ことばの発達と教育) について理解する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・各時期における発達や社会性について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|---|
| <p>5 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の学習の過程①></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな学習の形態や概念及びその過程の根拠から心理学における代表的理論の基礎を理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・第3章 学習のしくみ (1.乳幼児と学習/2.さまざまな学習) 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・学習の意義、さまざまな学習について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>6 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の学習の過程②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学の基礎的な考え方や用語を理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・第3章 学習のしくみ (3.記憶/4.学習が成立する環境) 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・記憶、学習が成立する環境について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>7 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の学習の過程③></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・心理学における代表的理論の基礎を理解し、やる気を育てるための方法をさぐる。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・第4章 やる気を育てる (1.やる気とは/2.いろいろなやる気—やる気の捉え方—) 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・内外のやる気、外からのやる気の問題点について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>8 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の学習の過程④></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児や児童の発達を踏まえた主体的な学習を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・第4章 やる気を育てる (3.内からのやる気の発達/4.内からのやる気をうばってしまう世界/5.内からのやる気を育てる) 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・内からのやる気の発達、やる気を育てる際の留意点について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|--|
| <p>9 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の学習の過程⑤></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児や児童の発達を踏まえた主体的な学習を支える指導における個人の発達をふまえた指導について理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第5章 個人差の理解 (1.個人差と個性／2.知能とはなにか) 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人差、知能について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>10 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の学習の過程⑥></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育現場における幼児の個人差を理解し、発達を踏まえた学習の支援の在り方について理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第5章 個人差の理解 (3.性格とは何か／4.子どものあり方の理解と適応) 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 性格は多様であることをふまえ、子どものあり方の理解と適応について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>11 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の学習の過程⑦></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児にとっての主体的な学習を支える集団作りと人間関係について理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第6章 人間関係と社会化 (1.人間関係の中で育つもの—人間関係の芽生え—／2.人間関係の広がりと環境／3.遊びと人間関係／4.道徳性と向社会的行動の発達) 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びの重要性、道徳性と向社会的行動の発達について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>12 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程④></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の主体的な学習を支える学習評価の在り方や知能検査などについて理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第7章 特別な支援を要する子どもたち (1.特別な支援を要する子どもたち／2.障害の理解と受容) 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の理解と受容過程について理解し保育の中で気になる子どもへの対応について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|---|
| <p>13 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程⑤></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達や特別の支援の必要な指導について理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 7 章 特別な支援を要する子どもたち (3.さまざまなこころの問題/4.保育の中での支援) 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ こころの問題への支援 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>14 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程⑥></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児や児童の主体的な学習を支える動機づけを発達の特徴と関連付けて理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 8 章 親の理解と子育て支援 (1.現代社会と子育て支援/2.現代の親子関係) 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士の子育て支援、現代の親子関係について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>15 回</p> | <p><幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程と総復習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各発達段階における心理的特徴を重点的に理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 8 章 親の理解と子育て支援 (3.保育者に求められる役割/4.保育者のストレスとストレスマネジメント) ・ 幼児、児童、及び生徒の心身の発達及び学習の過程の総復習 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目の学習成果を達成している。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習事項：特になし。 ・ 復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。 |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|---|--|--|--|-----|---|---------|----------------|
| 科目名 | 特別支援の方法・保育と理解 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 鈴木 久子 大賀 恵子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail: ohga@owc.ac.jp | | | | | | OH:水曜2限 | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</p> <p>特別支援を必要とする幼児・児童及び生徒が学習活動に参加し生きる力を身につけていくことができるよう、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得することを目指す。次の4項目を習得目標とする。</p> <p>①障害児保育を支える理念を学び、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、現状と課題について理解する。</p> <p>②障害児等の理解と保育における発達の援助について学び、家庭および社会資源との連携・協働について理解する。</p> <p>③特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害特性や心身の発達について理解する。</p> <p>④特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援法、学習上または生活上の困難との対応について理解する。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる内容（幼児一人一人の特性に応じ障害や発達の課題に即した個別指導を行う能力）を習得する。</p> <p>汎用的学習成果：教育目標に関する内容を理解し、保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションが円滑に行えるような人間関係力を構築する。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>学習成果を確認するために授業中に論述課題を実施する。授業時間外にもレポート課題を課す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育で必要な知識の習得は、講義形式で行う。 ・実践的な対応技能の習得は、演習形式で行う。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるため、予習や復習を奨励し、グループワークを行う。 | | | | |
| | | 予習・復習 | <p>予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。</p> <p>復習：基本的には授業で使用した資料・板書内容・プリントの見直しを行う。提出課題とする場合がある。なお、予習、復習には毎回90分は学習すること。</p> | | | | |
| テキスト | | <p>柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子 [編]</p> <p>改訂版『はじめての特別支援教育』有斐閣アルマ 2016年</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>評価配分に関して</p> <p>以下の4つの学習成果について、習得度合いを等分に評価する。</p> <p>①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。</p> <p>②障害児等の理解と保育における発達の援助について学び、家庭および社会資源との連携・協働について理解する。</p> <p>③特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。</p> <p>④障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難への対応方法を理解する。</p> <p>評価ツールに関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果：評価配分の合計80点は期末試験で測る。 ・汎用的学習成果：評価配分20点は課題で測る。授業内容に応じた論述課題を含む。 | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書</p> <p>授業中に紹介する。</p> | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|--------|--|
| 1 回 | <p><オリエンテーション・特別支援教育の歴史></p> <p>1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認し、支援の必要性を理解する。</p> <p>2. 本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。 ・特別支援教育の歴史と支援の必要性を理解する。 <p>3. 本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の概要について理解し、特別支援教育の歴史と支援の必要性が説明できる。 <p>4. 予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を振り返り、特別支援教育の歴史と支援の必要性を確認する。 |
| 2 回 | <p><特別支援教育の理念と制度①></p> <p>1. 本時の目標 インクルーシブ教育システムや合理的配慮を学び、特別支援教育に関する制度の理念、仕組みを理解する。</p> <p>2. 本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第1章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 <p>3. 本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育と合理的配慮について説明できる。 <p>4. 予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第1章を読んでおく。 ・復習事項：特別支援教育の理念に関する課題を仕上げる。 |
| 3 回 | <p><特別支援教育の理念と制度②></p> <p>1. 本時の目標 特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容を理解する。</p> <p>2. 本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第2章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 <p>3. 本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容が説明できる。 <p>4. 予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第2章、特別支援教育学校の学習指導要領の内容を確認しておく。 ・復習事項：特別支援教育の仕組みに関する課題を仕上げる。 |
| 4 回 | <p><特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①></p> <p>1. 本時の目標 支援システムの構築の必要性と法的整備について理解する。</p> <p>2. 本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第3章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 <p>3. 本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援システムの構築の必要性と法的整備について説明することができる。 <p>4. 予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第3章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題を作成する。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|---|
| <p>5 回</p> | <p><特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 特別な支援教育におけるコーディネーターの役割と専門性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第4章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・関係機関との連携し支援体制を構築することの必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章を読んでおく。 ・復習事項：特別支援教育コーディネーター・関係機関を確認する。 |
| <p>6 回</p> | <p><特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法③></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第5章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第5章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題（計画書）を作成する。 |
| <p>7 回</p> | <p><特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害など特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法を確認し、例示することができる。 2. 本時の活動 ・テキスト第6,7章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法について、例示することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第6,7章を読んでおく。 ・復習事項：支援方法についてまとめる。 |
| <p>8 回</p> | <p><特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第8,9章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第8,9章を読んでおく。 ・復習事項：情緒障害児・言語障害児の特性と支援方法をまとめる。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|---|
| <p>9 回</p> | <p><特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性③></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 10, 11 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 10, 11 章を読んでおく。 ・復習事項：視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性をまとめる。 |
| <p>10 回</p> | <p><特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 12 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 12 章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。 |
| <p>11 回</p> | <p><特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、保護者との連携></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 保護者の障害受容とストレスなど、保護者の心理状態を把握し、支援の必要性を確認する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 13 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。幼児・児童理解について確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者の障害受容とストレスなどに対する支援の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 13 章を読んでおく。 ・復習事項：保護者の障害受容とストレスについて理解し、支援の必要性を確認する。 |
| <p>12 回</p> | <p><特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、専門機関や地域との連携></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 専門機関や組織的な対応の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 14 章を解説し、事例をもとに対応、本時の理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・専門機関や組織的な対応の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 14 章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|---|
| <p>13 回</p> | <p><早期発見、早期支援と連携></p> <p>1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の家庭支援の実際を確認し、早期発見、早期支援の必要性を理解する。</p> <p>2. 本時の活動 ・テキスト第 15 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の進路状況や養育者の心理及び家庭支援の実際を理解する。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：本科目に関する内容からテーマを定め、それに関する資料を準備する。 ・復習事項：養育者の心理及び家庭支援の実際を理解し、早期発見・早期支援の必要性を確認する。</p> |
| <p>14 回</p> | <p><進学支援・就労支援と連携／特別支援の方法と理解></p> <p>1. 本時の目標 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する進学・就労支援について理解し、特別支援の方法と理解の内容を確認する。</p> <p>2. 本時の活動 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解について確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解を深める。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 16 章を読む。／本科目の内容を復習しておく。 ・復習事項：第 1 回から第 13 回の授業内容を確認する。</p> |
| <p>15 回</p> | <p><まとめ></p> <p>1. 本時の目標 本科目の内容を振り返り、必要な知識や支援方法の習得度合いを確認する。</p> <p>2. 本時の活動 次の 3 点に関して習得度合いを確認し、本科目の内容に関するレポートを仕上げる。 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難との対応を理解する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。</p> |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|---|---|---|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 発達心理学 I | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 大賀恵子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc.ac.jp、OH:土曜2限 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</p> <p>保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、心身の発達領域別に見た子どもの発達・成長過程の理解を深めることを目標とする。</p> <p>①心理学の観点から保育に関する基本的事項を学ぶ。 ②心身の発達領域別に乳幼児期の発達を理解するための基礎知識を習得する。 ③生涯発達に関する基礎的な知識を学び、初期経験の重要性、発達課題を理解する。 ④子どもの発達・成長に重要な遊びに関する様々な研究知見を習得する。 ⑤保育者としての信念をもち、あるべき姿勢を身につける。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる①～④の4項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる⑤の項目に関して、自主的に学ぶ姿勢を身につける。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>授業の進め</p> <p>(講義)・演習・実験・実習・実技</p> <ul style="list-style-type: none"> 主として教科書とノートに基づく講義形式によって行う。 授業内容に応じて、補足プリントを配布する。 授業内容の理解度確認のために、授業中に論述課題を実施する。 <p>予習・復習</p> <p>予習：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業後に復習を求め、そのポイントをまとめる。 各回90分程度の学習時間を確保すること。</p> <p>テキスト</p> <p>成田 朋子・大野木 裕明・小平 英志編著 『保育実践を支える保育の心理学 I』福村出版、2011年。</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>専門的学習成果</p> <p>評価配分は90点であり、期末試験(80点)と論述課題(10点)で測る。また、90点は以下に示した3つの専門的学習成果について、おおよそ「①：②：③=30点：30点：30点」の比重をおく。</p> <p>①心理学の観点から保育に関する基本的事項を学ぶ。 ②心身の発達領域別に子どもの発達を理解するための基礎知識を習得する。 ③生涯発達を理解しながら、保育の重要性を学ぶ。</p> <p>汎用的学習成果</p> <p>評価配分は10点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。</p> <p>以上の通り、専門的学習成果の評価配分は90点、汎用的学習成果の評価配分は10点、合計100点満点で最終評価を行う。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書</p> <p>新井邦二郎編著『図でわかる発達心理学』福村出版、1997年。</p> | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|--|
| <p>1 回</p> | <p><オリエンテーション・保育と心理学></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 授業内容の概略・進め方・成績評価の方法を確認し、乳幼児から学童期前期の発達と心理学とのかかわりについて理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を理解する。 ・乳幼児期の発達と心理学とのかかわりについて理解する。 3. 本時の学習成果 人間理解の1つの方法である「心理学」をおおまかに理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト1章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| <p>2 回</p> | <p><保育実践の評価と心理学></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 前回授業を振り返り、保育に活かされる心理学の基本的研究知見を示す。 2. 本時の活動 ・心理学の基本的な研究知見が保育にどのように活かされるのかを理解する。 3. 本時の学習成果 ・心理学の基本的な研究知見が保育にどのように活かされるのかを説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト2章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。 |
| <p>3 回</p> | <p><練習課題①・発達段階における代表的な理論></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 乳幼児の発達に関する代表的理論、発達の概念および発達理解の意義を説明する。 2. 本時の活動 ・1,2回の授業内容に関する課題を仕上げ、発達に関する代表的理論を理解する。 3. 本時の学習成果 ・発達過程の特徴を説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト3章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直ししておく。 |
| <p>4 回</p> | <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達①人間の発達とその要因></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 ・発達に影響する遺伝や環境の要因、それらの相互作用についての諸説を示す。 2. 本時の活動 ・人間の生涯発達に影響する要因を理解し、子どもの育ちに影響する要因を全体的な視点から把握する。 3. 本時の学習成果 ・人間の生涯発達に影響する要因を理解し、人間の発達とその要因が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト4章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。 |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 5 回 | <p><練習課題②・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達②情動と自我・自己の発達></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 乳幼児期の情動の発達、また、自我・自己の発達過程を説明する。 2. 本時の活動 3 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期の情動の発達に関してルイス (Lewis, M.) の理論などを紹介する。また、自我・自己の発達過程を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期の情動と自我・自己の発達過程が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 5 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。 |
| 6 回 | <p><練習課題③・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達③身体機能と運動機能の発達></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 乳幼児期の身体機能と運動機能の発達過程について、身体の発達曲線、粗大および微細運動の発達過程を紹介する。 2. 本時の活動 4 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期の身体機能と運動機能の発達過程について、身体の発達曲線、粗大および微細運動の発達過程を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期における身体および運動面の発達過程や特徴が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 6 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。 |
| 7 回 | <p><練習課題④・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達④知覚と認知の発達></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 乳幼児期の知覚に関して、乳幼児を対象とした知覚についての研究知見を紹介する。また、乳幼児期の認知に関して、ピアジェ (Piaget, J.) の理論を紹介し、乳幼児期の認知発達を説明する。 2. 本時の活動 ・5 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期の知覚・認知の特徴を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期の各知覚、乳幼児の認知の特徴が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 7 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。 |
| 8 回 | <p><練習課題⑤・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑤言語の発達></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 乳幼児期における他者とのかかわりについて、言語能力の発達過程を説明する。 2. 本時の活動 ・6 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期における他者とのかかわり・言語能力の発達過程を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児と養育者の相互作用とその意義、乳幼児期の言語能力の発達過程を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 8 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|------------------------------|---|
| <p>9 回</p> | <p><練習課題⑥・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑥人とのかかわり></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 乳幼児期における他者とのかかわりについて、母子関係の相互作用・ボールビィの理論・愛着について説明する。 2. 本時の活動 ・7回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期における他者とのかかわりについて、ボールビィの理論、愛着について内容を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期における他者とのかかわりについて説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト9章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。 |
| <p>10 回</p> | <p><練習課題⑦・家庭環境と保育の重要性></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 生涯発達に関して、「保育所保育指針」に示されている乳幼児期の発達の特徴を紹介し、乳幼児期の発達の特徴の全体像を示す。 2. 本時の活動 ・8回目の授業内容の課題を仕上げ、乳幼児期の発達の特徴の全体像を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期の発達の特徴の全体像、家庭における人間関係を確認し、発達の特徴を説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト10章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。 |
| <p>11 ・ 12 回</p> | <p><練習課題⑧・生涯発達と保育の重要性①></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 前回授業を振り返り、保育に活かされる心理学の基本的研究知見を示し、児童期以降の発達の特徴を説明する。 2. 本時の活動 ・4～9回目の授業内容から乳幼児期の発達の特徴の全体像を振り返り、生涯発達に関してエリクソン（Erikson, E. H.）の理論を紹介し、児童期以降の発達の特徴を確認する。 3. 本時の学習成果 ・児童期および青年期以降の発達の特徴が説明できる。 ・心理学の基本的な研究知見が保育にどのように活かされるのかを理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト11,12章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。 |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 13 回 | <p><練習課題⑨・生涯発達と保育の重要性②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 乳幼児の発達と生涯発達の重要性に関する理解を促進する。発達の“つまずき”に関して、その種類、発見と評価、支援のあり方を説明する。 2. 本時の活動 ・発達の“つまずき”の種類、発見と評価、支援のあり方を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児の発達と生涯発達の重要性に関して理解する。 ・発達の“つまずき”に関して、その種類、発見と評価、支援のあり方が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 13, 14 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく。 10, 11 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 |
| 14 回 | <p><練習課題⑩・子どもと遊び></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 遊びに関して、その概念、種類、機能、特徴を説明し、遊びが及ぼす子どもの発達に対する影響と意義を示す。 2. 本時の活動 ・遊びに関して、その概念、種類、機能、特徴を理解する。 3. 本時の学習成果 ・子どもの発達に対する遊びの意義を認識し、概念等を説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：子どもの頃の経験を振り返り、健康で安全な生活をつくりだす力を養うための効果的な遊びを考えてくる。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく。 |
| 15 回 | <p><まとめ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 心理学の観点から子どもの発達を理解するために習得した基礎知識、子どもが体験を積み重ね相互に関係をもちながら成長する過程を理解し、全講義の内容をまとめる。 2. 本時の活動 ・心身の発達領域別に見た子どもの発達・成長過程の理解を深め、保育の重要性を確認する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。 |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|--|---|---|--|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 臨床心理学 (A) | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 鈴木 久子 |
| 質問受付の方法 e-mail: hsuzuki@owc.ac.jp OH: 水曜日 14:40-16:10 M409 室 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>保育・教育者として日々の実践で幼児理解や保育に必要な基本的知識及び技能を臨床心理学の概念を生かして、高めるとともに、他の教職員や保護者とのコミュニケーション力を習得する。こころの問題を中心に、その理解と援助法について、基本的な在り方を理解する。すなわち、以下の諸点に関する基礎的知識を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① こころの問題や発達障害それぞれの特徴を理解する。 ② こころの問題や発達障害の援助に関する基本的知識を習得する。 ③ カウンセリングの技法の基礎的知識を理解する。 ④ 保育・教育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションが円滑に行えるような人間関係力を構築する。 <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>汎用的学習成果：教育目標に掲げる④の項目に関する姿勢を身につける。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストに基づいて進め、必要に応じてグループ討議を行う。 ・授業内容の理解度確認のために、授業中に小テストを実施する。 ・必要に応じて心理テストを行い、自己理解・幼児理解の一助とする。 ・毎回、授業後には振り返りタイムを設定する。 | | | | |
| 復習 | | <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習、45分間以上を求める。 ・復習事項：毎授業回後に45分間以上の復習を求め、そのポイントを示す。 | | | | | |
| ステキ | | <ul style="list-style-type: none"> ・高尾兼利ら編『保育と教育に生かす臨床心理学』ミネルヴァ書房、2013年。 ※授業用に冊子ノートを準備し、毎回、まとめと授業後の振り返り等を記入しておくこと。適宜、求められた日に点検を受ける。 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>専門的学習成果</p> <p>評価配分70点であり、期末試験(60点)と小テスト(10点)で測る。また、以下に示した3つの専門的学習成果について、専門的学習成果の評価配分70点とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① こころの問題や発達障害それぞれの特徴を理解する。 ② こころの問題や発達障害の援助に関する基本的知識を習得する。 ③ カウンセリング技法の基礎的知識を理解する。 <p>汎用的学習成果</p> <p>評価配分は30点である。予習・復習の内容・授業ノートの提出状況(10点)と課題(10点)、授業中の態度や演習の取り組み状況(10点)で評価する。毎回記入するシャトルカードを利用して授業の振り返りを行い、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、加点の機会を設ける。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p><参考図書></p> <p>下山晴彦他『臨床心理学 16巻1号』金剛出版、2016年。</p> <p>拓殖雅代義ら編『はじめての特別支援教育』有斐閣アルマ、2018年。</p> <p>日本教育カウンセラー協会『ピアヘルパーハンドブック』図書文化、2001年。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p><オリエンテーション> 授業内容の概略・進め方・成績評価・受講ルール。SGE。 <保育・教育の実践に生かす臨床心理学></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：子どもとの人間的な付き合いのスペシャリストにとって、臨床心理学とは、どのような学問なのか、現場でどう生かしていくのかについて概観する。 ・学習成果：臨床心理学とは、精神障害や心理的な問題、不適応行動などの援助や回復、予防またはその研究を目的とする心理学のひとつの分野である。 ・予習事項：臨床心理学者一人について概略を調べてくる。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p1～20）。 |
| 2 回 | <p><臨床心理学とこころ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：「こころ」とは何かについて多方面から検討する。 ・学習成果：「こころ」に関連する諸問題について理解を深める。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p23～38）。 ・予習事項：自分の人格形成への影響について考えてくる。 |
| 3 回 | <p><こころの問題と脳科学></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：前頭葉の働きと神経伝達物質、脳の成熟と父性・母性の関係について学ぶ。 ・学習成果：こころのからくりが科学的に説明できる。 ・予習事項：神経伝達物質について調べて来る。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p39～53）。 |
| 4 回 | <p><こころのアセスメント①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：心理アセスメントの方法について学ぶ。 ・学習成果：心理アセスメントとは何か、その方法が分かる。 ・予習事項：やってみたい心理療法や心理検査を一つ調べてくる。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p75～97）。 |
| 5 回 | <p><こころのアセスメント②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：子どもの心理療法や心理検査について知る。 ・学習成果：子どもの心理療法や検査があることを知りその一部を体験する。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p75～97）。 ・予習事項：知っている心理療法か心理検査を一つ調べてくる。 |
| 6 回 | <p><こころのアセスメント・心理検査③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：子どもの心理療法や心理検査について知る。 ・学習成果：子どもの心理療法や検査があることを知りその一部を体験する。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p75～97）。 ・予習事項：やってみたい心理療法や心理検査を一つ調べてくる。 |
| 7 回 | <p><心理療法の理論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：保育や教育に実践しやすい来談者中心療法の理論、それを使った遊戯療法、絵画療法について概略を知る。 ・学習成果：遊戯療法や絵画療法の演習を通して支援の仕方を概ね理解する。 ・予習事項：よく使われている心理療法の理論について調べて来る。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p99～112）。 |
| 8 回 | <p><こころの問題Ⅰの1>子どもの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：関わる援助の仕方について事例を通して検討する。 ・学習成果：事例検討を通して検討し、より具体的な支援方法を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p113～134）。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p113～134）。 |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 9 回 | <p><こころの問題Ⅰの2>子どもの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：関わる援助の仕方について事例を通して検討する。 ・学習成果：事例検討を通して検討し、より具体的な支援方法を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p113～134）。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p113～134）。 |
| 10 回 | <p><第1回小テスト> テスト範囲：第9回までの内容について小テストを実施する。</p> <p><軽度の発達障害①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：発達障害に対する臨床心理学的援助法のあり方を紹介し、保育者としての支援のあり方を説明する。ピアサポートNo1。 ・学習成果：発達障害に対する保育者としての支援のあり方を理解する。 ・予習事項：テキスト..の該当内容を熟読する（p157～172）。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p75～97）。 |
| 11 回 | <p><軽度の発達障害②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：発達障害への支援について、障害のある子どもの家族への援助のあり方を概説する。ピアサポートNo2。 ・学習成果：発達障害のある子ども家族への援助のあり方を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p157～172）。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p157～172）。 |
| 12 回 | <p><発達障害への支援①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：発達障害への支援について、障害のある子どもの家族への援助のあり方を概説する。 ・学習成果：発達障害のある子どもの家族への援助のあり方を理解する（DVD）。 ・予習事項：自閉症の特徴を復習しておくこと。 ・復習事項：感想をまとめておくこと。 |
| 13 回 | <p><発達障害への支援②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：発達障害への支援について、障害のある子どもの家族への援助のあり方を概説する。 ・学習成果：発達障害のある子どもの家族への援助を理解する（DVD）。 ・予習事項：課題レポート作成に備えておくこと。自閉症の特徴を復習しておくこと。 ・復習事項：自閉症について該当内容を熟読する。 |
| 14 回 | <p><こころの問題Ⅱ>大人の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：関わる援助の仕方について事例を通して検討する。 ・学習成果：事例検討を通して検討し、より具体的な支援方法を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p135～140，147～149）。 ・復習事項：テキストの該当内容を熟読する（p135～140，147～149）。 |
| 15 回 | <p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：全回の授業内容を振り返り、質疑応答を行う。ピアサポートの総まとめを行う。また、期末試験範囲を知る。 ・学習成果：こころの問題や発達障害において代表的な特徴を理解し、援助の方法も分かる。 ・復習事項：全体を総復習して定期検査に備える。 |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | | |
|--|--|---|----|-----|---|------|-------|--|
| 科目名 | 社会心理学 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 鈴木 久子 | |
| 質問受付の方法 e-mail:hsuzuki@owc.ac.jp OH：月曜日3限 M棟 409号室 | | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 <u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</u></p> <p>本科目では、社会的行動に関する基礎的な研究知見を学びながら、人の社会的行動について「あるある」「なるほど」と納得できる学びを目指す。具体的には、以下の諸点に関する基礎的な研究知見および能力を習得することである。</p> <p>① 社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得し、自己理解を深める。</p> <p>② 対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。</p> <p>③ 集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。</p> <p>④ 自律した社会人として人との関わりに必要なコミュニケーションスキルを習得する。</p> <p>学生の学習成果</p> <p><専門的学習成果> 教育目標に掲げる① ② ③の項目に関する研究知見を習得する。</p> <p><汎用的学習成果> 教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。</p> | | | | | | | |
| | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストに基づいて進め、集団心理をより理解するために、グループワークを実施する ・必要に応じて心理テストを行い、自己理解の一助とする。 ・毎回、授業後には振り返りタイムを設定する。 | | | | | | |
| 教育方法 | 予習・復習 | <p>予習事項：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を90分間以上して授業に臨むこと。</p> <p>復習事項：基本的には授業で使用したテキスト内容の見直しを90分間以上すること。キーワードを中心に整理し、参考図書等で確認すること。</p> | | | | | | |
| | テキスト | <p>使用テキスト：堀洋道監修『新編社会心理学改訂版』福村出版，2018年。 必要に応じてプリント資料を配布。</p> <p>*授業用に冊子ノートを準備し、左右の見開きで1日分とし、毎回、まとめておくこと。適宜、求められた日に点検を受ける。</p> | | | | | | |

| | |
|---------------------------------|---|
| 学 習 評 価 の 方 法 | <p>評価配分に関して</p> <p>専門的学習成果と汎用的学習成果について、合計 100 点を満点として評価を行う。それぞれの学習成果の評価配分および評価比重は以下の通りである。</p> <p><専門的学習成果></p> <p>専門的学習成果の評価配分は 70 点である。評価配分 70 点の中で、以下に示した、それぞれの専門的学習成果の評価比重は、おおよそ「①：②：③＝15 点：15 点：40 点」である。</p> <p>① 社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得し、自己理解を深める。</p> <p>② 対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。</p> <p>③ 集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。</p> <p><汎用的学習成果></p> <p>汎用的学習成果の評価配分は 20 点である。</p> <p>専門的学習成果に関して、授業で学んだ知識の理解度を図るために、理解度確認テストを行う。この評価配分は 10 点である。総じて、専門的学習成果 70 点、汎用的学習成果 20 点、理解度確認 10 点とし、合計 100 点満点で最終評価を行う。</p> <p>評価ツールに関して</p> <p><専門的学習成果></p> <p>専門的学習成果の評価配分の合計 70 点は学期末に行う定期試験で測る。</p> <p><汎用的学習成果></p> <p>汎用的学習成果の評価配分 20 点のうち 10 点は授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した社会人として人との関わりに必要なコミュニケーションスキルを習得するために、授業内容に応じた課題を課す。残り 10 点はノート提出状況やその内容、授業中の態度で測る。</p> <p>毎回記入するシャトルカードを利用して授業の振り返りを行い、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、加点の機会を設ける。</p> <p><授業内容の理解度></p> <p>理解度確認の評価配分 10 点は授業中に行う 2 回の小テストで測る。</p> |
| 注 意 事 項 | <p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池上知子・遠藤由美共著『グラフィック社会心理学第 2 版』サイエンス社、2009 年。 ・山岸俊男編『社会心理学キーワード』有斐閣双書、2015 年 |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p>【オリエンテーション】 本科目の講義内容・進め方・成績評価の方法・受講ルールに関する説明を行う。</p> <p>【はじめに】 ・社会心理学とは→人間の社会行動が社会的な多くの要因によってどのように起きているのかを明らかにする科学である。 予習事項：テキストの目次について目を通してくる。</p> |
| 2 回 | <p>【社会の中における個人の心理①】 P65 ・自己概念（自己知識）→自分の理解の仕方や内容について学ぶことによって、自己理解をより深める一助とする（心理テスト・自己コントロール法）。 予習事項：見えていない自分についていろいろ考えてくる（ジョ・ハリの窓）。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておく。</p> |
| 3 回 | <p>【社会の中における個人の心理②】 P75～ ・自己評価→自分自身に対する評価はどのくらいか。また、その評価に影響を与える要因について学ぶことによって、より適応的な自己評価のあり方を理解する。 予習事項：最近の自分を振り返り、自分を評価してくる。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておく。</p> |
| 4 回 | <p>【対人認知・対人行動①】 P14～15, P18, P22～26, P35 ・対人認知→相手の理解の仕方やその理解が歪む時のメカニズムを学ぶことによって、他者をより正確に理解し、円滑な対人関係を築くための一助となる。 予習事項：授業で指示する。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておく。</p> |
| 5 回 | <p>【対人認知・対人行動②】 P133～ ・対人魅力→人に魅力を感じる心のしくみについて学ぶことによって、日常の対人魅力の心理メカニズムを理解する。 予習事項：遠距離恋愛が上手いか上手くないか。それぞれの原因を考えてくる。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておく。</p> |
| 6 回 | <p>【対人認知・対人行動③】 P46～ ・原因帰属→自分や他者の行動を起こす原因がどのように規定されるのかを学ぶことによって、行動とその原因との関係を理解する。 予習事項：遅刻をした時の言い訳を考えてくる。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておく。</p> |
| 7 回 | <p>【第1回復習テスト】 第2回～第6回までの5回分の内容について復習テストを実施する。</p> <p>【集団の中の人間①】 P138, P149, P206～ ・人間関係の様相→人と人が関わるという基本的問題について学ぶことによって、人間という存在について理解するための一助とする。 予習事項：自分の友人関係の特徴を振り返ってくる。 復習事項：人が関係性の中で生きている意義を認識する。</p> |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 8 回 | <p>【集団の中の人間②】 P206～209、P227</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの他者によって影響する自分の行動 (1) —集団のダイナミクス— <p>→集団特徴 (例, 社会的規範, 同調) について学ぶことによって, 円滑な集団活動を行えるための一助とする。</p> <p>予習事項: 授業で指示する。</p> <p>復習事項: 講義内容を見直し, キーワードは理解しておく。</p> |
| 9 回 | <p>【集団の中の人間③】 P209～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの他者によって影響する自分の行動 (2) —他者存在の影響— <p>→集団特徴 (例, 社会的促進・抑制, 社会的手抜き) について学ぶことによって, 円滑な集団活動を行えるための一助となる。</p> <p>予習事項: 何か作業する時, そばに誰かいるとどんな経験をしたか思い出してくる。</p> <p>復習事項: 講義内容を見直し, キーワードは理解しておく。</p> |
| 10 回 | <p>【集団の中の人間④】 P214～220</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団意思決定→みんなで何かを決める時, 何か問題を解決する時のリスクについて学ぶ。 <p>これによって, 集団活動におけるリスク軽減策を理解する。</p> <p>予習事項: 何かを個人で決める時と集団で決める時で, どんな違いがあるのか考えてくる。</p> <p>復習事項: 講義内容を見直し, キーワードは理解しておく。</p> |
| 11 回 | <p>【集団の中の人間⑤】 P220</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ→効果的なリーダーシップについて学ぶことによって, 指導者としてのあり方を理解する。 <p>予習事項: 自分が尊敬できる人物を 1 人挙げ, その選んだ理由を考えてくる。</p> <p>復習事項: 講義内容を見直し, キーワードは理解しておく。</p> |
| 12 回 | <p>【集団の中の人間関係①】 P159</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己表現のワーク→自分の自己表現の特徴を知り, 課題を発見する。 <p>予習事項: 授業で指示する。</p> <p>復習事項: 講義内容を見直し, キーワードは理解しておく。</p> |
| 13 回 | <p>【集団の中の人間関係②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブな自己表現ワーク→自分も他者も大切にできる自己表現について学ぶ。 <p>予習事項: 配付資料を熟読しておく。</p> <p>復習事項: アサーティブな表現を考えてくる。</p> |
| 14 回 | <p>【第 2 回復習テスト】</p> <p>第 8 回～第 13 回までの 7 回分の内容について復習テスト, 課題テストを実施する。</p> <p>【集団の中の人間関係③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブな自己表現→ワークを体験して, 自己課題を達成すべく努める。 <p>予習事項: 復習テストに備えて勉強する。</p> <p>12・13 回の復習をする。</p> |
| 15 回 | <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義内容を振り返り, 必要なら補足する。 ・定期試験の出題内容について知る。 |

令和3年度教育計画

| | | | | | | | |
|---|--|--|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 幼児理解及び保育相談 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 大賀 恵子 |
| 質問受付の方法：(e-mail, オフィスアワー等)：e-mail：ohga@owc.ac.jp、OH：土曜日2限 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</p> <p>幼児理解は保育者の基本となる姿勢である。本科目では、幼児理解の知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解することを目標とする。</p> <p>①幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。</p> <p>②幼児理解の方法を具体的に理解する。</p> <p>③保育相談で必要となる心理学的基礎的知識を身につけ、基礎的な対応方法を身につける。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる①～③の3項目に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>汎用的学習成果：教育目標に掲げる①～③の項目に関して、保育者としての価値観や人間関係力を養い、自主的に学ぶ姿勢を身につける。</p> | | | | | | |
| | 授業の進め方 | <p>(講義)・演習・実験・実習・実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式によって行うが、受講者の理解を促進し学習効果を確認するために講義中に論述課題、小レポートを課す。 ・カウンセリング的関わりの理解のために、グループワーク等の演習形式を用いる。 | | | | | |
| 教育方法 | <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回に復習を求め、そのポイントをまとめる。その際、提出課題とする場合がある。 <p>各回90分程度の学習時間を確保すること。</p> | | | | | | |
| テキスト | <p>谷田貝公昭(監修)・大沢裕・藤田久美 他 『子どもの理解と援助(保育士を育てる)』一藝社、2020年</p> | | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>専門的学習成果</p> <p>評価配分は90点であり、期末試験(80点)と論述課題(10点)で測る。90点は以下に示した3つの専門的学習成果について、おおよそ「①：②：③=30点：30点：30点」の比重をおく。</p> <p>①幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。</p> <p>②幼児理解の方法を具体的に理解する。</p> <p>③保育相談で必要となる心理学的基礎的知識を身につけ、基礎的な対応方法を身につける。</p> <p>汎用的学習成果</p> <p>評価配分は10点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。</p> <p>以上の通り、専門的学習成果の評価配分は90点、汎用的学習成果の評価配分は10点、合計100点満点で最終評価を行う。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等</p> <p>小林郁子 小林久利 共著：「保育所の子育て相談」～相談の基本・事例とアドバイス～萌文書林 佐川寛子・成瀬美恵子：「保育者のためのカウンセリングマインド入門」チャイルド本社、2007年。</p> | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|--------|---|
| 1 回 | <p><オリエンテーション></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 授業内容の概略・進め方・成績評価の方法を確認し、幼児理解の意義及び教育相談の意義と課題を説明する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を理解する。 ・幼児理解や教育相談の意義を理解する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・保育相談の基礎の教育目標が理解できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト1章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| 2 回 | <p><幼児理解・保育相談の意義></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 幼児理解の意義及び教育相談の意義と課題を確認しながら、それぞれに関わる幼児の発達や学びを捉える原理を心理学的立場から理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達や学びを捉える原理を理解する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達や学びを捉える原理が説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第2章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| 3 回 | <p><幼児理解・教師の基礎的態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 幼児理解に関して代表的心理学的立場からその原理的考察を深め、幼児に必要な環境について理解する。また、それと関連づけながら幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度がどのようなものであるかも理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解に必要な環境作り、教師の基本的な態度について理解する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解に必要な環境設定、教師の基本的な態度について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第3章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |
| 4 回 | <p><幼児理解のための実態把握と理解の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 授業3回までを振り返り、幼児理解を深めるための実態を把握し、「個」と「集団」がどのような関係にあるのかを捉える意義や方法を理解し、観察法等の基礎的な事柄を例示する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解のための実態を把握する。 ・「個」と「集団」の関係が捉える意義や方法を理解している。 ・観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第4章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|--|
| <p>5 回</p> | <p><保育相談支援の計画と記録・事例の対応方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 学校教育において、カウンセリングマインドの必要性を具体的事例や実際に事例の対応をもとに理解する。 2. 本時の活動 ・具体的事例の対応について計画を立て援助法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・保育相談の具体的な事例の対応を理解し、計画に基づく援助法について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第5章を熟読する。 ・復習事項：事例の対応方法を確認する。 |
| <p>6 回</p> | <p><信頼関係を基本とした受容的かかわり・自己決定など></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 これまでの幼児理解に関する内容と関連づけながら、幼稚園をはじめとする教育相談におけるカウンセリングの基礎的な知識を習得する。 2. 本時の活動 ・カウンセリングの基礎的な理論を理解し、教育相談の実践事例について確認する。 3. 本時の学習成果 ・カウンセリングの基本的な理論が理解し、事例の対応を検討できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第6章を熟読する。 ・復習事項：カウンセリングの理論について理解する。 |
| <p>7 回</p> | <p><保育所における保育相談の実際></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 教育相談の計画の作成に必要な校内体制の整備、組織的な取り組みの必要性について、実際の学校現場の様子などの具体的レベルで理解する。 2. 本時の活動 ・学校現場の様子を理解し、養育者自身の問題に対する事例対応を把握する。 3. 本時の学習成果 ・養育者自身の問題における事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第7章を熟読する。 ・復習事項：養護者自身の問題への対応法と留意点を確認する。 |
| <p>8 回</p> | <p><気になる幼児への理解と保護者支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関して、学校現場における幼児、児童及び生徒の不応適や問題行動に対する幼児や児童および生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を考える。児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を心理学的なアプローチにより理解する。 2. 本時の活動 ・学校現場の諸問題について調べたデータをグループで確認する。実際の心理支援の技法を理解できる。 3. 本時の学習成果 ・気になる幼児への理解と保護者支援の方法と留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：学校現場の諸問題に関する資料を確認する。テキスト第8章を熟読する。 ・復習事項：保護者の心理的支援の方法を理解する。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|--|
| <p>9 回</p> | <p><保育相談支援の内容―障害のある幼児と保護者理解―></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 障害のある幼児への対応法を確認し、ケースワーク過程について事例をもとに理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・事例についてグループワークから対応法を検討する。 ・対応法を確認し、留意点等も確認できる。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある幼児への対応法と留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第9章を熟読する。障害のある幼児への対応法を考える。 ・復習事項：集団でのコミュニケーション技法について理解する。 |
| <p>10 回</p> | <p><保護者理解と子ども理解></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 学校ごとの職種や校務分掌に応じて、幼児、児童、及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を具体的な事例をもとに学び、さらに例示することができる。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して具体的な保護者対応を確認する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・保育相談の具体的な事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第10章を熟読する。事例の対応方法を考える。 ・復習事項：事例の対応方法を理解する。 |
| <p>11 回</p> | <p><保護者の養育力の向上に資する支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を再度理解しなおすとともに、幼児のつまずき、保護者への対応などの具体的方法について理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭支援に大切な保護者の養育力の向上について基礎的な理論を確認する。 ・家庭支援の具体的な方法について理解する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て、家庭支援について、保護者の養育力向上に資する支援法を確認する。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第11章を熟読する。カウンセリング理論について調べる。 ・復習事項：事例の対応法を理解する。 |
| <p>12 回</p> | <p><地域資源の活用と関係機関との連携・協力></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 教員として幼児理解や教育相談に関わる際に、地域の医療・福祉・心理等の医療機関との連携がどのような意義や必要性を有しているかについて理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・専門機関との幼児理解の共有について確認する。 ・カウンセリングにおける技法について理解する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源との連携・協力についての必要性を理解できる。 ・カウンセリングにおける技法について確認する。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第12章を熟読する。カウンセリングにおける傾聴技法について調べる。 ・復習事項：カウンセリング技法について理解する。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|--|
| <p>13 回</p> | <p><幼児理解を深める実践と省察></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 学校現場における保護者に対する教育相談の進め方を、幼児に対するものと比較して理解する。 2. 本時の活動 ・コミュニケーションの取り方について、技法としての知識を得る。 3. 本時の学習成果 ・幼児と養育者の問題に対する事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第15章を熟読する。幼児理解を深めるための方法を考える。 ・復習事項：コミュニケーションの取り方に関する技法を確認する。 |
| <p>14 回</p> | <p><保育に関わる保護者への指導と保育カンファレンスにおける幼児理解></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関して、学校現場における受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。 2. 本時の活動 ・保育カンファレンスにおける幼児理解について確認する。 ・保護者への指導法について理解する。 3. 本時の学習成果 ・保育カンファレンスにおける幼児理解について具体的に説明できる。 ・保護者への指導法について理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第14章を熟読する。保護者への指導法について考える。 ・復習事項：保育カンファレンス、保護者への指導について確認する。 |
| <p>15 回</p> | <p><幼児理解に基づく援助から生まれるもの・総まとめ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 幼児理解に基づく援助から生まれるものは何か、それらを大切にしたい保育相談の方法はどのようなものかを確認し、自身の対応法をまとめる。14回までの授業内容をまとめる。 2. 本時の活動 ・14回までの授業内容を振り返り、幼児理解及び保育相談に関する内容について確認する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の学習成果を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第1回から第14回の授業内容を整理し、期末考査に備える。 |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|--|--|--|----|-----|---|------|------------------------|
| 科目名 | 保育・教職実践演習 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 浦上博文、 都田修兵、 鈴木久子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) 水曜 16:20~17:00 鈴木 hsuzuki@owc.ac.jp | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標</p> <p>本科目は、必修科目及び選択必修科目、保育実習、施設実習、幼稚園教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を取得したことを確認する。特に3つの実習の現場で発見した問題について分析考察を行い、講義、グループ討議、ロールプレイ等の方法によって探究し、問題解決の手法を学ぶことを目的とする。</p> <p>具体的には、教員として求められる4つの事項、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項や次の内容に基づいて授業を行うものとする。</p> <p>(1) 教育課程の全体を通して、保育者として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。</p> <p>(2) 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育者、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。</p> <p>本科目は、短大2年間での学びの集大成としての役割を果たすものであって、自身の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い、定着を図ることによって、保育者生活を円滑にスタートできる力を身につけることを目標とする。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>○専門的学習成果 教育目標に掲げる知識や能力を獲得し、姿勢や意見を形成することが挙げられる。</p> <p>○汎用的学習成果 保育者としての使命感や社会の一員として求められる倫理観や価値観を獲得し他者との豊かな人間関係力を養う。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>教育目標を達成できるように、講義、グループ討議、ロールプレイなどを通して総合的に学ぶ。また、保育現場と連携を図り、保育者による講演・ディスカッションを実施する。3名の教員がオムニバス形式で担当するが内容に応じてチーム・ティーチングの方式で行う。また、入学時からの履修カルテに基づき必要に応じて補完的指導を行う。</p> <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。 <p>※予習および復習については、それぞれ90分程度を目安とする。 ※授業における課題等についてはその都度フィードバックを実施する。</p> <p>テキスト</p> <p>適宜、プリント等を配布する。</p> | | | | | |

| | |
|---------------------------------|---|
| 学 習 評 価 の 方 法 | <p>以下の学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育者としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。 (2) 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 (3) 幼児理解の姿勢を持ち学級経営の力量の基礎を形成する。 (4) 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 (5) 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 (6) 社会性や対人関係能力を形成する。 (7) 必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。 <p>学習評価は、実習報告会、各授業でのグループ討議・ロールプレイングの取組内容・レポート・小論文などの結果を踏まえ、教員として最低限必要な資質能力が身についているかを担当教員全員が総合的に評価、確認し、学習評価を行う。</p> <p>具体的には次の内容によって評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 履修カルテの作成 (10%) 履修カルテの作成により評価する。 (2) 幼児理解に関する内容 (10%) 授業内の課題等により評価する。 (3) 実習報告会 (10%) 保育所実習や施設実習、幼稚園教育実習のいずれかについての実習報告を1年生に向けた発表会において行う。なお、その際には発表会用ポスターと当日の発表への取り組み方などによって評価する。 (4) 講演会 (10%) 現場の保育者による講演を聴き、その講演に関する感想などにより評価する。 (5) 指導案作成 (20%) 発達段階の確認や各年齢にあわせた指導案の作成等により評価する。なお、その際には、保育者の具体的な保育場面等での理解もあわせて行い、保育者としての使命感等についても理解する。 (6) 小論文 (40%) 小論文による評価を行う。 <p>ただし、受講態度に問題があった者、保育者としての倫理観が十分でない場合は汎用的学習成果を考慮する。保育所実習、施設実習、幼稚園教育実習のそれぞれの成績評価はその成績評価が基準点を上回らなければ評価を得ることはできない。</p> |
| 注 意 事 項 | <p>参考図書等 参考資料は適宜授業内容にあわせて紹介・配布する。</p> <p>その他 知識技能の獲得状況を踏まえての科目であることから、履修には、保育所実習、施設実習幼稚園教育実習を受講し、単位習得の見通しがついていることが前提となる。</p> |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p><オリエンテーション> (鈴木、都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の目標と計画 ・授業の内容と進め方、単位認定に関する説明・スケジュール・担当者の紹介 ・活動 ①グループ討議「これまでの学習の振り返り・幼稚園教諭になるための自己課題について」 ②履修カルテの作成 ③講演会に向けて(幼稚園教諭への質問) ・課題 討議記録の作成 |
| 2 回 | <p><幼児理解・学級経営・対人間関係力> (鈴木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ロールプレイング・グループ討議「教員間の協力・家庭との連携・保護者面談について」 ・活動 ロールプレイング及びグループ討議「保護者面談について」 ・課題 本時の内容について整理する。 |
| 3 回 | <p><使命感・責任感・教育的愛情・対人間関係能力①> (都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 ①各実習経験の共有 ②「実習報告会」に向けた準備 ・課題 ①講義記録及び意見文の作成 ②「実習報告会」のポスター制作 |
| 4 回 | <p><使命感・責任感・教育的愛情・対人間関係能力②> (都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 ①各実習経験の共有 ②「実習報告会」に向けた準備 ・課題 ①講義記録及び意見文の作成 ②「実習報告会」のポスター制作・発表原稿の作成 |
| 5 回 | <p><使命感・責任感・教育的愛情・対人間関係能力③> (都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 ①各実習経験の共有 ②「実習報告会」に向けたリハーサル ・課題 ①講義記録及び意見文の作成 ②「実習報告会」に向けた準備を進めておく。 |
| 6 ・ 7 回 | <p><実習報告会> (鈴木、浦上、都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 1年生に向けて実習での体験などを「ポスター発表」という形式を通して伝える。 ・課題 ポスターを完成させておく。 実習報告会の自身の発表について反省する。 |
| 8 回 | <p><使命感・責任感・愛情> (都田・浦上・鈴木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 保育士、施設職員(施設保育士を含む)、幼稚園教諭などによる講演「保育者に必要な指導力、学級経営、指導案について」 ・課題 ①幼稚園教諭とのディスカッション「幼児に対する教育的愛情、組織の一員としての自覚、保護者や地域関係者との連携について」 ②ディスカッション記録の作成講義記録及び意見文の作成グループ討議 ・課題 討議記録の作成 |
| 9 回 | <p><社会性や対人間関係能力> (浦上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 講演のまとめ グループ討議・発表 「ほいく社講演・ディスカッション授業のまとめ・保育者としての自覚の形成」 |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 10 回 | <p><保育内容指導力①> (都田、鈴木、浦上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 ①DVD等により、子どもたちの発達段階や保育指導案の作成について理解する。 ②制作する保育指導案の役割分担決めを行う。 ・課題 自身が作成する保育指導案に必要な情報等を集める。 |
| 11 回 | <p><保育内容指導力②> (都田、鈴木、浦上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 ①保育指導案の作成を進める。 ②保育指導案のなかにおいて必要な教材を作成する。 ・課題 保育指導案や教材の作成を進める。 |
| 12 回 | <p><保育内容指導力③> (都田、鈴木、浦上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 ①保育指導案の作成を進める。 ②保育指導案のなかにおいて必要な教材を作成する。 ・課題 保育指導案や教材の作成を進める。 |
| 13 回 | <p><保育内容指導力④> (都田、鈴木、浦上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 自分の作成した指導案や教材についての発表を行う。 ・課題 友達の保育指導案や教材から自身の学びを深める。 |
| 14 回 | <p><保育内容指導力⑤> (都田、鈴木、浦上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 ①自分の作成した指導案や教材についての発表を行う。 ②15回目に実施される小論文についての説明を行う。 ・課題 ①友達の保育指導案や教材から自身の学びを深める。 ②小論文作成のために下書きを進めておく。 |
| 15 回 | <p><確認とまとめ> (浦上・鈴木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 「幼稚園教諭としての資質・能力の確認、自己課題探求のまとめ」を小論文に書く。 <p><総復習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの振り返り |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|--|--|---|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 子ども家庭支援論 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 大賀恵子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH:土曜2限 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 <u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</u></p> <p>子ども家庭支援の意義と役割を理解し、保育士による子ども家庭支援の意義とその基本を学ぶ。子育て家庭に対する支援の体制、多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。</p> <p>①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。また、保育者としての価値観・人間関係力を養う。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>授業の進め方</p> <p>(講義)・演習・実験・実習・実技</p> <p>教育目標を達成するために、以下のような要領で授業を行っていく。 ・講義形式で行う。理解を深めるために、必要に応じて演習も行う。 ・毎回課題プリントを実施し、子ども家庭支援論に関する習熟度を高める。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるために、予習・復習を奨励する。</p> <p>予習・復習</p> <p>予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業回後に復習を求め、そのポイントを示す。 各回90分程度の学習時間を確保すること。</p> <p>テキスト</p> <p>和田上貴昭・高玉和子(編著)他 『子ども家庭支援論 (保育士を育てる)』一藝社、2020年</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>専門的学習成果</p> <p>評価配分は80点であり、期末試験で測る。また80点は、以下に示した4つの専門的学習成果について、おおよそ同等の比重をかける。</p> <p>①家庭の意義とその機能について理解する。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 ③子育て家庭の支援体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。</p> <p>評価は、課題・授業中に実施し提出する課題(20点)、及び期末試験(80点)により実施する。</p> <p>汎用的学習成果</p> <p>評価配分は20点であり、授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した保育者としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた論述問題の課題を課す。受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。</p> | | | | | | |
| 項 注 意 事 | <p>参考図書・岩間伸之『対人援助職のための相談面接技術 逐語で学ぶ21の技法』中央法規出版、2008年。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p><オリエンテーション・子ども家庭支援の必要性、家庭の機能と役割></p> <p>1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認する。さらに、家庭・家族の概念とその歴史を説明し、都市化・核家族化・少子化などの影響による現在の家庭の実態を把握したうえで家庭の機能と役割を理解する。</p> <p>2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。子どもに現れる様々な問題を解決するためには子どものみでなく家庭そのものも援助することの必要性を理解する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、子ども家庭支援の課題は家族の子育てに対する社会的支援について学ぶことであるという認識を持つ。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：シラバスで学習内容を確認し、テキスト1章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。</p> |
| 2 回 | <p><子ども家庭支援の意義と社会状況></p> <p>1. 本時の目標 家族と子育てに関する近年の動向や実態を把握し、子ども家庭支援の意義を理解する。</p> <p>2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・家庭とは何かを考えることにより、子育ての場として家庭をとらえ、取り巻く社会状況の中で家庭がどのように機能していくべきかを考えられるようになる。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：家庭・家族の概念を調べ、テキスト2章を熟読する。 ・復習事項：家庭の実態を把握し、子ども家庭支援の意義と機能に関する課題を仕上げる。</p> |
| 3 回 | <p><保育者による子ども家庭支援の目的と必要性></p> <p>1. 本時の目標 子ども家庭支援の目的と必要性を理解し、事例についてグループで対応法を確認する。</p> <p>2. 本時の活動 ・子ども家庭支援の目的と必要性を理解し、各グループの対応法から求められる支援のあり方を確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・保育者による子ども家族支援の目的と必要性を理解する。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：保育士の専門性とは何かを調べておく。テキスト3章を熟読する。 ・復習事項：保育士の専門性と子ども家庭支援の目的と必要性に関する課題を仕上げる。</p> |
| 4 回 | <p><保育の専門性と子育て支援></p> <p>1. 本時の目標 保育の専門性について確認し、家庭支援の機能を活かした子どもの喜びにつながる対応について理解する。</p> <p>2. 本時の活動 ・目標内容の理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・子どもの育ちを確認し、保育士の専門性を活かした子どもへの対応を理解する。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章を熟読する。子どもの喜びの共有とは何かを考えておく。 ・復習事項：子どもの育ちの喜びの共有に関する課題を仕上げる。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|---|
| <p>5 回</p> | <p><家庭の状況に応じた支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 家庭の状況に応じた支援事例をもとに、保育士としての対応法を確認する。 2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・事例をもとにロールプレーをするなかで保護者とのかかわりをどのようにするのがよいかを考察できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第5章を熟読する。支援の展開過程について調べておく。 ・復習事項：事例に応じた支援法に関する課題を仕上げる。 |
| <p>6 回</p> | <p><保護者及び地域の実践力向上に資する支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 保護者が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を説明する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第6章を熟読する。子育て支援サービスについて調べておく。 ・復習事項：子育てを自ら実践する力の向上に資する支援に関して説明できるようにする。 |
| <p>7 回</p> | <p><保育者に求められる基本的態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 保育士に求められる支援の展開過程、アセスメントのための具体的なツールを紹介したうえで、支援の基本的態度を理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育士に求められる基本的態度を理解し、説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第7章を熟読する。支援の展開過程について調べておく。 ・復習事項：具体的な展開過程に関する課題を仕上げる。 |
| <p>8 回</p> | <p><社会資源との連携・協力></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 地域の子育てマップや広報誌などをもとに、どの機関がどのような子育て支援を実施しているか概説する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・社会資源における子育て支援の役割と課題について確認する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第8,9章を熟読する。最寄りの地域の子育て支援について調べておく。 ・復習事項：社会資源との連携・協力に関する課題を仕上げる。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|---------|---|
| 9 回 | <p><子育て家庭に対する支援体制></p> <p>1. 本時の目標 子育て家庭の福祉を図るための社会資源を確認し、保育士としてどのように対応するのが望ましいかを理解する。</p> <p>2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・社会資源の活用、調整、開発のための保育士としての対応を理解し、事例分析を通して対象の理解を深める。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第8,9章を熟読する。社会資源の活用に関する事例を調べておく。 ・復習事項：子育て家庭に対する支援体制に関する課題を仕上げる。</p> |
| 10 回 | <p><子育て支援施策・次世代育成支援施策></p> <p>1. 本時の目標 子育てに対するさまざまな問題に国がどのような施策で対応してきたか概要を説明する。保育所における子育て支援の役割を確認し、支援方法や配慮点について理解する。</p> <p>2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・子育て支援においては、親自身が主人公であるという視点も必要なことに気づく。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第10章を熟読する。子育て支援と保育者の役割について調べておく。 ・復習事項：国の対応、保育所の支援方法に関する課題を仕上げる。</p> |
| 11 回 | <p><さまざまな子育て家庭への支援内容></p> <p>1. 本時の目標 さまざまな子育て家庭支援の対象を確認し、それぞれの支援方法と内容を理解する。</p> <p>2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・子育て家庭支援の対象が分かり、それぞれの支援方法と内容が理解できる。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第11章を熟読する。子育て家庭支援について調べておく。 ・復習事項：子育て家庭支援の対象、それぞれの支援方法と内容に関する課題を仕上げる。</p> |
| 12 回 | <p><保育所等を利用する子ども家庭支援></p> <p>1. 本時の目標 保育所等を利用する子ども家庭支援の事例を取り上げ、保育所等と相談支援機能との関連や支援の留意点について解説する。</p> <p>2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・児童福祉法（子ども権利条約など）・保育所保育指針（子育て支援）の内容を確認し、保育所の役割と理解・支援の留意点が理解できる。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第12章を熟読する。児童福祉法・保育所保育指針を確認しておく。 ・復習事項：保育所等の支援方法と留意点、家庭支援への理解に関する課題を仕上げる。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|--|
| <p>13 回</p> | <p><要保護児童等及びその家庭に対する支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 児童虐待、ひとり家庭、障害をもつ子ども家庭への支援課題と対応を確認し、支援のあり方について解説する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育士は子ども家庭が抱える問題への対応と予防の現状を理解し、適する支援方法を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第13章を熟読する。児童虐待に関する内容について調べておく。 ・復習事項：要保護児童等及びその家庭に対する支援に関する課題を仕上げる。 |
| <p>14 回</p> | <p><地域の子育て家庭への支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 地域の子育て家庭への支援事例を取り上げ、保育所における子育て支援の役割について解説する。また、保育者や幼稚園が企画して提供する事ばかりが子育て支援ではないことを知る。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・地域の子ども・子育て支援事業の内容を確認し、保育士の役割や支援者のあるべき姿を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第14章を熟読する。地域子育て家庭支援に関する取り組みを調べる。 ・復習事項：地域の子育て家庭支援に関する課題を仕上げる。 |
| <p>15 回</p> | <p><子ども家庭支援に関する現状と今後の動向・総まとめ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 子ども家庭支援について振り返り、子ども家庭支援における保育士の役割を確認する。 2. 本時の活動 ・本科目の教育目標に関して習得度合いを確認し、その内容に関するレポートを仕上げる。 3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第15章を熟読する。 ・復習事項：第1回から第14回の授業内容を整理し、期末考査に備える。 |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|--|---|---|--|---|---|------|--------|
| 科目名 | 乳児保育 I | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 山本 婦佐江 |
| 質問受付の方法(e-mail, オフィスアワー等): B307研究室 fusae@owc.ac.jp | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標: <u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</u></p> <p>保育所や乳児院で、乳児保育を担当する保育士として必要な理論や知識・技術の基本を、具体的な事例を通して理解させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育所保育指針」に基づき、乳児保育の基本を理解する。 2. 乳児各期の発達課題に即した援助のありようを考える。 3. 家庭や地域との連携、協働という文脈において考える。 4. 乳児の保育環境についてどう捉え、どう整えたらよいかを考える。 <p>学生の学習成果:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果: 将来乳幼児保育に関わるものとして、上記に掲げた乳児期の基礎的な知識と技術を獲得する。 ・汎用的学習成果: 人格形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となりを養成する。 | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはテキストやプリントを中心に進めていくが、適宜学習の理解を深めるために参考資料を配付する。 ・ワークシートにより講義内容ごとにまとめ、大切なポイントを確認し、受講生の見解を問う。また、ビデオ視聴後は、レポートなどの形式により内容把握や感想を問う。 | <p>予習・復習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上記の内容により、必要に応じて課題を投げかけ、感想や意見等を予習・復習として求める。(各 90 分程度) 2. 所定の様式により提出をさせ、チェックする。 | <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加藤 敏子編著 富永 由佳:2019「乳児保育 一人一人を大切に」萌文書林 ・資料 「0歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 「1歳児・2歳児の発達と保育者の援助のポイント」 | | | |
| 学習評価の方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 上記3つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。 2. 期末テストの成績 80% (試験の持ち込みはすべて不可) 3. 随時、課題・レポート提出 20% (提出期限厳守) 課題・レポートの内容が不適切で未熟な場合、減点とする。 4. 積極的な授業への参加、真摯な授業態度を重視する。 尚、汎用的学習成果について、「保育者としての態度・信念」 課題・演習に取り組む姿勢や人となりで評価する。 <p>学習評価は、上記を総合して行う。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監修: 公益財団法人 児童育成協会 編集: 寺田清美 大方美香 塩谷 香 :2019「乳児保育 I・II」中央法規 ・田中真介監修 乳児保育研究会編書:2009「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p><オリエンテーション> 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。</p> <p><乳児保育の目的と役割> ・学習のポイント:乳児保育の歴史を振り返り、子どもの育つ保育環境の変化や乳児保育の必要性さらに乳児保育の意義について学ぶ。また、保育者の役割について認識する。 テキスト p.10～28 「乳児保育の意義」・「乳児保育の歴史と現状」1 ・課題:「乳児保育の目的と役割」についてワークシート①にポイントまとめる。 ・予習:「子どもを産み育てていくとしたら、どんな子育て支援が必要か？」考えてくる。</p> |
| 2 回 | <p><乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題> ・学習のポイント:子育て家庭を取り巻く社会的環境から、その支援のあり方や課題を学ぶ。 テキスト p.28～39「乳児保育の歴史と現状」2 ・課題:グループで「子育て支援・待機児童・乳児院」について話し合い、ワークシート①にまとめる。 ・復習:「乳児保育の目的と役割」について確認しておく。</p> |
| 3 回 | <p><あかちゃんの能力について> ・学習のポイント:DVD視聴 「あかちゃん このすばらしき生命」を視聴し、基本的な知識やイメージだけでなく実際にはどんな能力があるのか認識する。 ・課題:視聴後、「あかちゃんの能力」について学んだことを踏まえて、自分の考えをまとめる。 ・復習:ワークシート①についての確認。 ・予習:テキスト (1)「誕生～6か月未満」の発達の特性を読んでくる。</p> |
| 4 回 | <p><誕生～6か月未満の発達と保育> ・学習のポイント:資料「誕生～6か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」をもとに、1か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 「0歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」資料(2)～(7) テキスト p.40～49 第3章 1発達の特性 2(1)誕生～6か月未満 ・課題:ワークシート②「誕生～6か月未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ:「乳児保育の実際 前半」を視聴し 0歳児前半の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。 ・復習:「あかちゃんの能力」確認をする。 ・予習:テキスト (2)「6か月～1歳3か月未満」の発達の特性を読んでくる。</p> |
| 5 回 | <p><6か月～1歳3か月未満の発達と保育> ・学習のポイント:「6か月～1歳3か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、1か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する 「0歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」資料(8)～(14) テキスト p.58～65 「6か月から1歳3か月未満」 ・課題:ワークシート③「6か月～1歳3か月未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ:「乳児保育の実際 後半」を視聴し、6か月～1歳3か月未満の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。 ・復習:「誕生～6か月未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習:テキスト (3)「1歳3か月～2歳未満」の発達の特性を読んでくる。</p> |

| | |
|----------|--|
| 6 回 | <p><1歳3か月～2歳未満の発達と保育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント:「1歳3か月～2歳未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、1歳3か月～2歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 「1歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 資料(15) テキスト p.66～69 「1歳3か月～2歳未満」 ・課題:ワークシート④「1歳3か月～2歳未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 <p>ビデオ視聴:「遊びの中にみる1歳児」を視聴し1歳児の子どもの発達の様子を、映像によってさらに理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習:「6か月～1歳3か月未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 |
| 7 回 | <p><2歳～3歳未満の発達と保育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント:「2歳～3歳未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、2歳～3歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 「2歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 資料(16) テキスト p.70～74 「1歳3か月～2歳未満」 ・演習:ワークシート⑤「2歳～3歳未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ・復習:「1歳3か月～2歳未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習:「泣くときはどんなことを伝えているのか?」について考えてくる。「はいはいの仕方」は? |
| 8 回 | <p><乳児期の発達の特性></p> <p>学習のポイント:乳児期の発達と特性について理解する。 テキスト p.40～49 「3歳未満児の発達と保育」1発達の特性</p> <p>「泣く子の見分け方」について……資料をもとに、泣くことの原因や気をつけることなど様々な事例を分析し、対応の仕方を理解する。</p> <p>「はいはいの発達」について……資料をもとに、はいはいの意味や発達過程を理解し、乳児の接し方の力をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習:「2歳～3歳未満」の子どもの発達と保育者の配慮・援助の確認。 ・予習: テキスト3「乳児期の生活」・ 4「1～2歳児の生活」の離乳食と食事を読んでくる。 |
| 9 回 | <p><乳児の生活②(食事・睡眠)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント:テキスト p.76～88 「乳児期の生活」、p.94～100「1～2歳児の生活」、「スプーンと箸について」の資料によって、基本的なスプーンや箸の持ち方を身につけ、さらに発達過程の経過についても理解を深める。また、食事のための環境づくりについて、食器の選び方や配膳方法を知り、理解する。 ・演習: ワークシート⑥「スプーンや箸の持ち方、食器の選び方」について空白を記入し提出。 ・復習:「泣く子の見分け方」「はいはいの発達」についてポイントを確認。 ・予習:「子どものトラブル」にはどんなことがあるか考えてくる。 |
| 10. 回 | <p>< 場面事例から学ぶ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント:ビデオ「やさしさの育つとき」を視聴し、様々な場面からの子どもへのかかわり方を学び、さらにグループで話し合い、相手の意見や気づきを共有する。 ・課題:各グループでビデオ視聴後、場面ごとの事例をもとに子どもへのかかわり方や気づいたことをまとめる。ワークシート⑦ 「かみつき・ひっかきの対応の仕方」について、事例をもとに分析し、基本的なトラブルへの対応の仕方を身につける。 「ひっかき・かみつきへの対応」の資料 ・復習:「食器の選び方」や、スプーン・箸の持ち方の発達過程について確認。 ・予習:テキストをもとに「指導計画にはどんなものがあるか」確認してくる。 |

| | |
|----------|--|
| 11. 回 | <p>＜保育の計画と記録＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント:乳児保育を行う上での計画の必要性,また、保育計画作成において保育者が行う援助や配慮の大切なポイントを学び、書き方のポイントを身につける。 テキスト p.152～175「保育の計画と記録」 ・課題:「0～3歳未満」それぞれの「生活と遊び」の指導案を作成する。 グループで年齢を決め、0歳児、1歳児、2歳児それぞれの「ディリープログラム」をもとに生活と遊びの流れの場面の指導案を作成する。 ・復習:「トラブルの対応について」確認(被害者・加害者・保護者・園など各側に立って)。 ・予習:テキスト (3)排泄(4)着脱衣(5)清潔を」読み確認する。 |
| 12. 回 | <p>＜排泄:着脱衣・清潔＞</p> <p>学習のポイント:基本的生活習慣は、人間が快適に生活するために欠かせないものであり、集団保育では家庭と連携して身につけられるよう援助していくことが大切である。保育者が乳幼児期それぞれの発達過程により、どう援助していくかを認識する。 テキスト p.88～94「乳児期の生活」・ p.100～109「1～2歳児の生活」 (3)排泄(4)着脱衣(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題:グループで「生活場面における子どもの姿と保育者のかかわり」について話し合いまとめる。 ・復習:0、1、2歳児それぞれのディリープログラムや発達によって、援助の仕方や関わり方の違いについて確認する ・予習:0、1、2歳児はどんな玩具があるか、考えてくる。 |
| 13. 回 | <p>＜乳児の玩具・遊び＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント:乳児の玩具やあそびの種類を知り、その遊びの行為によって育つものは何かを理解する。さらに、乳児の遊びの意味について理解を深める。 テキスト p.110～126「乳児期のあそび」・「1～2歳児のあそび」 ・課題:手作り玩具を製作(1～2個) 手作りした玩具の「あそび・遊び方・育つもの」について項目ごとにまとめる。 またグループでそれぞれの玩具について発表し合い、どんな働き(育つもの)は何か考える。 ・演習:乳児の手遊び・ふれあい遊び ・宿題:実習園で0、1、2歳児クラスの玩具をみて書きとめる。(記入用紙)実習事前 |
| 14. 回 | <p>＜健康,安全管理・保育の環境＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント:子どもの健やかな発達のためには、環境が重要であることで知り起こりやすい事故や対処方法、また事故防止対策などについて理解する。 そして様々な事例を分析し、共通点や基本的な対応の仕方を身につける。 テキスト p.127～151「健康,安全管理」・「保育の環境」 ・課題:グループで「起こりやすい事故への対処方法」について話し合いにまとめる。 ・予習:乳児保育テキストを見て、今までに学んだ乳児保育の現状と背景、保育のニーズ保育者の役割について確認する。 |
| 15. 回 | <p>＜乳児保育の今後の課題・まとめ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント:近年、保育ニーズが複雑化しており、地域・他機関との連携・子育て支援などが必要とされている。その中で保育所の役割は大きく、保育者はより高い専門技術や資質が要求されているという意識をもつこと。 テキスト p.176～192「乳児保育の今後の課題」 ・課題:～乳児保育で大切なこと～、また保育士の立ち位置について再確認する。 ・演習:実習園では子どもの発達についてはどうだったか? どんな玩具があったか、環境や子ども同士のかかわりはどうだったか話し合う。 |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|---|------|--------|
| 科目名 | 乳児保育Ⅱ | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 山本 婦佐江 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : B307研究室 fusae@owc.ac.jp | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標：<u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</u></p> <p>乳児保育の基本的な考え方について理解し、3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びや生活の実際、環境構成、援助、配慮について理解するとともに、指導計画と記録のあり方について学ぶことを目的とし、以下の4点を主な目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 <p>専門的学習成果：乳児保育Ⅰの学びを基礎として、発育・発達の過程や特性を踏まえた子どもへの関わり方や保育環境について理解を深める。</p> <p>汎用的学習成果：人間形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となりを養成する。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはテキストやプリントを中心に進めていくが、講義、グループ討論、演習を行う。 ・受講者の理解を図るため、課題により資質能力の確認、まとめを行う。 | <p>予習・復習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上記の内容により、必要に応じて課題を投げかけ、感想や意見等を予習・復習として求める。(各45分程度) 2. 所定の様式により提出をさせ、チェックする。 | <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・善本眞弓 編著 小山朝子 亀崎美沙子：「演習で学ぶ 乳児保育」わかば社 | | | |
| 学習評価の方法 | <p>評価を以下の4つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。10、30、20、10点で計70点、汎用学習成果計30点を合わせて100点満点で評価する。ただし、授業態度によっては減点する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の基礎について理解する。(1回) 2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びについて理解する。 0～2歳児の生活の流れ・保育環境・援助 (2～10回) 3. 乳児保育における配慮について理解する。(11, 12, 13回) 4. 乳児保育における計画について理解する。(14, 15回) <p>尚、汎用学習成果について、「保育者としての態度・信念」課題や演習に取り組む姿勢や人となりで評価する。</p> <p>学習評価は、上記を総合して行う。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書：監修：公益財団法人 児童育成協会 編集：寺田清美 大方美香 塩谷 香：「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規</p> <p>評価として提出物、演習課題を重視する。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p><オリエンテーション> 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。</p> <p><乳児保育の基本></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：保育者との応答的かかわりや信頼関係の構築が子どもの発達にどのように影響しているか、理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと保育者との関係性について 2. 乳児（0歳）と1歳以上3歳未満児の保育内容 <p>演習：応答的なかかわりと言葉の育ちにはどんな関係があるか考えてみよう。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。</p> |
| 2 回 | <p><子どもの生活の流れ（0歳児クラス）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：乳児が安心して心地よく過ごせる生活とは何か、大切にしたい視点を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 0歳児のディリープログラムについて 2. 乳児のディリープログラムの特徴 3. 一人ひとりに応じた適切な援助を行うための実践 <p>演習：「流れる日課」を行うためには、どのような保育者の配慮や作業が必要なのか考えてみよう。育児担当制を実施する場合のメリット、デメリットを考えてみよう。 復習：子どもと保育者との関係の重要性について再確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。</p> |
| 3 回 | <p><子どもの保育環境（0歳児クラス）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：子どもの保育環境は、大きく人的環境と物的環境に分けられる。なかでも、物的環境における心地よい室内環境や発達を促す玩具について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 指針からみる保育環境 2. 乳児が過ごしやすい部屋 3. 玩具 <p>演習：家庭的雰囲気にするために、どのような工夫ができるか考えてみよう。 復習：「0歳児のディリープログラム」について再確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。</p> |
| 4 回 | <p><子どもの援助の実際（0歳児クラス）></p> <p>学習のポイント：生活（「養護」と遊び（5領域につながる「3つの視点」）の援助について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の援助の実際 2. 遊びの援助の実際 <p>演習：0歳児クラスの食事場面をイメージして、どのような「ねらい」と「内容」「配慮事項」が考えられるか書いてみよう。 復習：「0歳児クラスの保育環境」について再確認する 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。</p> |
| 5 回 | <p><子どもの生活の流れ（1歳児クラス）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：1歳児の一日の生活（ディリープログラム）に沿って、保育者の配慮を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 1歳児クラスの生活の流れ（ディリープログラム） <p>演習：「朝の視診」について考えてみよう。 復習：「0歳児の生活と遊びの援助」について大切なことを確認しておく。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。</p> |

| | |
|---------|--|
| 6 回 | <p><子どもの保育環境（1歳児クラス）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：1歳児の発達の特徴に配慮する中で、保育者の援助がスムーズに行える環境設定や、地域性における工夫について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の整備（生活と遊びの場） <p>演習：手作り玩具をつくってみよう。</p> <p>復習：1歳児の生活の流れの中で、大切な「保育者の配慮」について確認しておく。</p> <p>予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。</p> |
| 7 回 | <p><子どもの援助の実際（1歳児クラス）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：1歳児の発達の特徴を考えてどのように援助したらよいか？保育者のかわり方について、生活と遊びの両面から、具体的な援助について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の援助 2. 遊びの援助 <p>「排泄と着脱について」、保護者は排泄の自立についてどのように考え、どのような悩みを持っているだろうか、認識する。遊びの場面のDVDから考える。</p> <p>演習：着脱の動作を分割してとらえ、どのような援助が必要なのか考えてみよう。</p> <p>復習：援助しやすい環境設定について確認する。</p> <p>予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。</p> |
| 8 回 | <p><子どもの生活の流れ（2歳児クラス）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：2歳児の生活の流れを理解し、2歳児の発達の課題である生活習慣の自立を促すための環境構成や、保育者のかわりとは何かについて学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 2歳児クラスの生活の流れ（ディリープログラム） <p>演習：事例から、自立をうながす保育者のかわり方を考えてみよう。</p> <p>食事・排泄・衣服の着脱・清潔・その他の場面などから</p> <p>復習：生活と遊びの中での具体的な援助の仕方について確認する。</p> <p>予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。</p> |
| 9 回 | <p><子どもの保育環境（2歳児クラス）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：2歳児クラスの物的環境の1つである玩具を中心に、その構成のポイントを理解し、具体的に玩具が子どもの発達にどのように関係するかを学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 玩具のそろえ方のポイント 2. 見立て遊び 3. 手指の発達をうながす遊び <p>演習：2歳児の発達に適した人形はどのようなものがあるかを考える。</p> <p>復習：生活習慣の自立をうながす保育者のかわり方について確認する。</p> <p>予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。</p> |
| 10 回 | <p><子どもの援助の実際（2歳児クラス）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：2歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性を確認し、保育所保育指針に示されている、「育みたい資質・能力」につながる2歳児の育ちについて理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 手指の発達をうながす遊びと生活習慣 <p>演習：トイレ排泄に慣れ、自分で排泄できるようになる時期である。自分で排泄しようとするための適切な援助を考える。</p> <p>復習：玩具が子どもの発達にどのように関係するかを確認する。</p> <p>予習：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について考えてくる。</p> |

| | |
|---------|--|
| 11 回 | <p><子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：子どもの心身の健康や安全、情緒の安定とは何かを保育所保育指針から確認し、現状で起こっている事故などについて知り、基本的な知識を身につける。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針の内容 2. 子どもの死亡および事故の現状と課題 3. 情緒の発達 <p>演習：危機管理における保育者の配慮と子どもの安全教育 復習：2歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性を確認する。 予習：「保育者、その他の専門職、保護者との連携」について考えてくる。</p> |
| 12 回 | <p><集団での生活における配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：集団での育ちを保障しながら個々への配慮を行うためには何が必要か、保育者、他職種、保護者との連携の重要性について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団保育と個々への援助 2. 保育者同士と他職種・保護者との連携 <p>演習：事例を読んで、保護者に園での子どもの様子をどう伝えるか、考えて書いてみよう。 復習：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮とは 予習：「環境の変化や移行に対する配慮」について考えてくる</p> |
| 13 回 | <p><環境の変化や移行に対する配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：移行や環境の変化の現状について理解を深め、保育者の配慮や援助のあり方に関する基本的事項を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 移行とは何か 2. 環境の変化や移行に対する配慮とは <p>演習：DVD「物とのかかわりの中で学ぶ」を視聴して、子どもの姿からの気づきや感じたことを記録する。 復習：集団での育ちを保障しながら個々への配慮を行うためには何が必要か確認する。 予習：乳児保育における計画にどのようなものがあるか考えてくる。</p> |
| 14 回 | <p><長期的な指導計画と短期的な指導計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：長期的な指導計画と短期的な指導計画について学び、指導計画の必要性について考える。指導計画の評価（保育の振り返り）について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の指導計画から・保育の振り返りについて <p>演習：DVD「人とかかわりの中で学ぶ」を視聴して、子どもの姿からの気づきや感じたことを記録する。 復習：子どもがスムーズに移行するために何をしたらよいか確認する。 予習：個別的な指導計画と集団の指導計画とはどんなものか考えてくる。</p> |
| 15 回 | <p><個別的な指導計画と集団の指導計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：個別的な計画と集団の計画について理解し、個別の指導計画の必要性について学ぶ。個別計画を立てるには家庭との協力・連携の必要性について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 個別的な計画・集団の計画 2. 保護者との連携 <p>演習：まとめ「0歳～2歳児の発達過程」の特徴を書いて表を完成させよう。 復習：指導計画の保育の振り返りの必要性について</p> |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|--|--|---|---|-------------------------------------|---|------|--------------------|
| 科目名 | 保育実習指導 I | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 大賀恵子・山本婦佐江 吉田 升 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH:土曜 2 限 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</p> <p>保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に挙げる 5 項目を習得する。</p> <p>また、汎用的学習成果は以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。③保育者としての論理的思考力・人間関係力を育成する。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実習の意義目的等を手引きに沿って講義する。 ②実際の実習の手続きを進める。 ③実習に関する具体的な方法を身に付けるため適宜課題を出す。 ④事後指導として、実習を総括し、課題を明確にするためのまとめを行う。 | <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する予習・復習は毎回義務付けられる。各 90 分確保し十分に習得すること。 ・授業を受けての「自己課題と対策」などに関しては、シャトルカードに記述し、次回の振り返りと学びの確認に活用する。 | <p>テキスト</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p> | | | |
| 学習評価の方法 | <p>保育所実習 I、施設実習のそれぞれについての実習指導を 50 : 50 の比重で評価し合計 100 点満点とする。各実習で以下の 5 つの学習成果 (授業課題、調査表やレポート課題の提出状況) について同じ比重で評価する。提出状況や授業態度については別に示す規定に基づいて減点する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実習の意義・概要を学ぶ。 ②実習の内容と課題の明確化ができる。 ③実習に際しての留意事項を確認する。 ④実習の計画と記録について学ぶ。 ⑤事後指導における実習の総括と課題の明確化。 <p>なお、汎用的学習成果①保育者としての態度・信念は減点内容にて評価する。②保育者として適正な価値・判断の基準と明確な意見表明はレポート等の提出物にて評価される。</p> | | | | | | |
| 事項注意 | <p>※「保育実習指導 I」は、1 年次後期から 2 年次前期にかけて実施される。</p> <p>※『保育実習の手引き』配布後は必ず持って来ることとする。</p> <p>※授業に必要な資料、書類を毎回確認し、準備すること。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>保育所実習オリエンテーション（以下について理解する。）</p> <p>1. 履修規定について 2. 評価について</p> <p>3. 実習までのスケジュール 4. 開講にあたっての意識調査</p> <p>◆作業：「実習希望先調査表」の配付・説明・課題化</p> |
| 2 回 | <p>施設実習オリエンテーション（以下について理解し、身につける。）</p> <p>1. 履修規定について</p> <p>2. 評価について</p> <p>3. 施設実習事前・事後指導テキスト『施設実習の手引』第Ⅰ章『実習の意義と目標』</p> <p>4. 実習可能施設一覧表</p> <p>◆作業：引き続き「実習希望先調査表」の調査・作成</p> |
| 3 回 | <p>保育所実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>1. 事前準備の話、ビデオ「はじめての保育実習」を通じて実習のイメージを形成する。</p> <p>2. ボランティアと実習との相違</p> <p>3. 実習希望先（案）掲示・確認・調整</p> <p>◆課題：「開講にあたっての意識調査」</p> |
| 4 回 | <p>保育所実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>1. 実習の意義と目的</p> <p>2. 実習の段階等</p> <p>3. 保育実習にあたっての不安に答える Q&A</p> <p>4. 実習報告会参加についての説明</p> <p>◆課題：実習報告会の質問事項を考える（質問事項は当日プリントに書く）</p> |
| 5 回 | <p>保育所実習・施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>1. 実習報告会参加</p> <p>2. 報告会に参加しての学びをまとめる</p> <p>◆課題：実習報告会プリントの作成・提出</p> |
| 6 回 | <p>保育所実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>1. 内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明</p> <p>2. ボランティアに関する諸注意</p> <p>◆課題：内諾依頼（岡山県外実習生）冬休み中の課題となる。</p> |
| 7 回 | <p>施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>施設実習における実習生の心得</p> <p>1. 『施設実習の手引』第Ⅱ章「実習準備」・第Ⅲ章「実習生の心得」</p> <p>2. 日誌の書き方と記入練習</p> <p>◆作業：内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明、課題化</p> |
| 8 回 | <p>保育所実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>実習事務訓練</p> <p>1. 「実習の意義、心構え、社会人としての責任、守秘義務、実習の目標」</p> <p>2. 事前訪問（事前オリエンテーション）の手順と注意</p> <p>3. 手作り玩具（2年生の作品）の作品紹介</p> <p>◆春休み課題：実習希望先のボランティア・ボランティア日誌</p> <p>1. ボランティア（3日間）</p> <p>2. レポート「ボランティア園の概要・保育所の日・日誌1日分」</p> <p>3. 手作り玩具の製作（保育実習指導Ⅱの第一回目の授業で提出）</p> |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 9 回 | <p>施設実習（以下について理解する。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 提出された実習事前レポートについての補足と解説 2. 「実習中の基本的態度と注意事項」 3. 事前オリエンテーションの事前指導 <p>◆課題：事前オリエンテーションのために実習施設に電話連絡と内諾を得る。</p> |
| 10 回 | <p>施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>施設実習送付書類の配付と説明 および各種準備の確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 書式説明 2. 記入の諸注意 3. 参考例による確認 <ul style="list-style-type: none"> ・「事前オリエンテーションについて」配布 ・「実習生について（個人票）」 ・「評価票」「出勤簿」配布・説明・記述・回収 ・「実習先交通図」配布・説明 <p>◆課題：実習先までの地図作成と交通機関を調査する。</p> |
| 11 回 | <p>施設実習（以下について理解する。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習中勤務時間外の注意事項 2. 日誌の書き方と注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・施設実習連絡・注意事項(1) <p>◆課題：一日分の日誌を書く。</p> |
| 12 回 | <p>施設実習（以下について理解する。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日誌の書き方と注意事項 2. 『実習の手引き』実習生の心得 <ul style="list-style-type: none"> ・施設実習連絡・注意事項(2) <p>◆課題：施設実習日誌の「施設オリエンテーション」の欄に施設の概要を書く。</p> |
| 13 回 | <p>施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>実習記録の書き方『施設実習の手引』第IV章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習日誌の記録 2. 日誌欄について 3. 実習生としての姿勢と責任 4. 人間関係とマナー <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答 ・教員による実習先巡回について <p>◆課題：実習先における事前指導を日誌に記入する。</p> |
| 14 回 | <p>施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>施設実習に向けて『実習後のまとめ』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 諸注意の確認 2. 課題の設定 <p>実習終了後の諸注意（施設）『施設実習の手引き』第V章</p> <p>◆課題：実習後レポートについての説明</p> |
| 15 回 | <p>事後指導（施設実習・保育所実習）（以下について理解し、身につける。）</p> <p>実習後の事後記録記述</p> <p>◆課題：施設実習事後レポート</p> <p>◆課題：実習評価の公開と自己課題の確認</p> |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|---|------|--------------------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 大賀恵子・山本婦佐江 吉田 升 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH:土曜2限 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</p> <p>保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に挙げる5項目を習得する。</p> <p>汎用的学習成果：以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。③論理的思考力、人間関係力を培う。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習Ⅱの意義や内容・準備について、春休みに各学生が保育現場を観察してきた体験を基準として「保育所実習の手引」に沿った講義を軸として進める。第1～4回 ・指導計画については、各項目の記述法が身につくよう演習に重点を置き、添削を行い、見直し、復習しつつ進める。第5～9回 ・保育士の専門性と職業倫理については、厚生労働省企画のDVDを用い、保育指針と対応させて学ぶ。それに並行して子どもの理解力の発達段階をロールプレイングによって相互点検する。第10～13回 ・事後指導は、自己の記録を見直し充実させ、自己評価を行い、グループ討議を経て課題解決への方針を立てる。第14, 15回 | <p>予習・復習</p> <p>講義や演習の内容に合わせ、予習や復習または実習に関する課題等を指示する。各回1時間程度の学習時間を確保すること。</p> | <p>テキスト</p> <p>岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引』(平成31年)、フレーベル館『保育所保育指針』平成29年告示</p> | | | |
| 学習評価の方法 | <p>以下の5つの学習成果について均等に評価し、合計100点満点とする。ただし、授業態度・課題提出等については別に示す規定に基づいて減点する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育実習の意義・目的の理解と保育の総合的な学び。提出物 ② 保育実践力 ③ 計画と観察、記録、自己評価を踏まえた保育の改善に関する学び ④ 保育士の専門性と職業倫理の理解 ⑤ 実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする学び <p>なお、汎用的学習成果について、①は減点内容にて評価する。②と③は小論文の評価に含まれる。</p> | | | | | | |
| 項 注意事 | <p>※「保育実習指導Ⅱ」は、2年次前期に開講される。</p> <p>※13回目までの内容を実習前に実施する必要がある。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p><保育所実習指導Ⅱオリエンテーション> 教育目標 1</p> <p>1. 保育実習Ⅱの意義と目標 2. 評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」① について理解する。 ・演習：DVD「保育士・幼稚園教諭になるために－保育士の仕事と役割－」を通じて実習のイメージを形成する。 <p>◆課題：「実習生について（個人票）」下書きの説明と記入</p> |
| 2 回 | <p><実習の内容について> 教育目標 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」② について理解する。 ・演習：上記についてワークシートを用いてまとめる。 <p>◆課題：「実習園への巡回用地図」作成・提出 送付書類「評価票」「出勤簿」の必要事項記述</p> |
| 3 回 | <p><実習の形態と記録について> 教育目標 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅱ・Ⅲ章」 について理解する。 ・演習： 上記についてワークシートを用いてまとめる。 ・演習： 春休み観察実習の日誌からを見返し、各項目の点検及び文体等の留意点を解説に沿って自己点検する。 <p>◆課題： 検便・レントゲン検診結果証明書・賠償保険についての依頼書記入</p> |
| 4 回 | <p><保育の理解について> 教育目標 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅳ章」 について理解する。 <p>◆課題： 実習園でのオリエンテーション 実習服装準備(エプロン等)</p> |
| 5 回 | <p><保育計画について> 教育目標 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：日誌・指導案の書き方について理解する。 ・演習：月案・週案・日案・指導案の書き方など各項目についての解説に沿って整理し、まとめを記述する。指導案の「環境構成」「予想される子どもの活動」「保育場の配慮・援助」を解説に沿って記述する。 <p>◆課題： 部分指導事例の通読</p> |
| 6 回 | <p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：部分指導「マラカス作り」の指導案（1年後期授業より）の確認、指導を受けて要領を理解する。 ・演習：グループごとに部分指導「マラカス作り」の模擬保育を行い、内容の反省と考察を行う。（模擬保育室で実践） <p>◆課題： 演習課題の完成と提出</p> |
| 7 回 | <p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「生活から遊びへの流れ」について3歳未満児と3歳以上児の違いや保育士の動きの違いに関する指導を受けて、要領を理解する。 ・演習：①前回提出指導案の返却。添削と解説を受けて要領を理解する。 ②グループごとに「食事の指導案（3歳未満と3歳以上）から遊び」への流れの模擬保育を行い、内容について反省と考察を行う。（模擬保育室で実践） <p>◆課題： 演習課題の完成と提出</p> |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 8 回 | <p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：前回提出指導案の返却。添削と解説を受けて要領を理解する。 ・演習：「遊びの指導案作成① グループごとに遊びと年齢を決めて指導案を作成する。 <p>◆課題：演習内容の完成</p> |
| 9 回 | <p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：「遊びの指導案作成② グループごとに遊びと年齢を決めて指導案を作成する。 ・演習：ワークシート「指導案の中の7つのエラー探し」をする。 <p>◆課題：①「学内オリエンテーション」「実習園でのオリエンテーション」記述・提出 ②「実習の自己課題」を考えてくる。</p> |
| 10 回 | <p><実習の準備と留意事項> 教育目標 2・3・4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第V章」について理解する。 ・演習：実習の自己課題をまとめる。 <p>◆課題：実習の目標を確認し「実習の自己課題」を記述・提出</p> |
| 11 回 | <p><保育所保育指針復習①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：保育所保育指針 第1章総則の視点からワークシートを用いてまとめる。 <p><実習のまとめと評価について> 教育目標 1・4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第VI章」「保育所実習評価の着眼点」について理解する。 <p>◆課題：保育実習巡指導の依頼</p> |
| 12 回 | <p><保育所保育指針復習②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：保育所保育指針 第2章からワークシートを用いてまとめる。 <p><実習書類と諸注意> 教育目標 1・4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 V実習のまとめ」について理解する。 <p>◆課題：日誌バインダーの見直し、必要な場合は清書する。</p> |
| 13 回 | <p><保育実習の直前確認> 教育目標 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：園への依頼内容、実習中の連絡・報告等に関する確認 について理解する。 |
| 14 回 | <p><保育実習の総括①> 教育目標 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：実習園が行う評価票と同じ視点で自己評価を行い、課題をまとめる。 <p>◆復習：実習の意義と目的を確認し、自己評価に基づき保育に対する課題や認識を明確にする。 課題：実習園へのお礼状送付</p> |
| 15 回 | <p><保育実習の総括②> 教育目標 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：前回まとめた自己課題に対し、学生時代にどのようにして解決すべきかグループで討議し、方針と決意・覚悟を文章にまとめる。 <p>◆振り返り：保育士の専門性と職業倫理について理解し、保育実践力の向上に役立つ自己の課題を明確にする。</p> |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | | |
|--|---|--|----|-----|---|------|-------------------------|--|
| 科目名 | 教育課程論及び教育方法・技術論 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 都田修兵・山本婦佐江 原田俊孝・福野裕美 | |
| 質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー) : stsuda@owc.ac.jp 、OH : 土曜日 2 限目 | | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</p> <p>本科目では、子どもたち（とくには幼児教育期）に求められる資質や能力を育成するために必要である教育の方法及び技術の基礎的な知識と技能を習得するとともに、ICTなどの情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能も習得する。また、幼稚園教育要領などを基準として編成される教育課程の意義や編成方法を理解するとともに、各園や学校に合わせてカリキュラム・マネジメントを実施することの意義を理解する。</p> <p>具体的には、「教職課程コアカリキュラム」に対応する以下の目標を達成するものとする。</p> <p>(1) 教育の方法論 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。</p> <p>(2) 教育の技術 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。</p> <p>(3) 情報機器及び教材の活用 情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>(4) 教育課程の意義 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。</p> <p>(5) 教育課程編成の方法 教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。</p> <p>(6) カリキュラム・マネジメント 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。</p> <p><専門的学習成果> 本科目における「専門的学習成果」は、教育目標に示す(1)から(6)までを理解し、「教職」についての基礎的事項を修得することである。</p> <p><汎用的学習成果> 本科目における「汎用的学習成果」は、「価値・意見」、情報リテラシー・数量的スキル」及び「論理的思考力」の獲得である。</p> | | | | | | | |
| | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式による。 ・授業時間内外に取り組む課題（保育指導案）を課す。 | | | | | | |
| | 予習・復習 | <p>予習・復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回に、「授業回数別教育内容」に記された予習及び復習を求める。 ・予習については、第2回～15回に向けて、90分×14回を目安とする。また、復習については、第1回～15回終了後にその回の内容と15回目には別途90分程度の期末試験に向けた復習も入れて、90分×15回+90分を目安とする。 <p>※復習でわからないことがあった学生には、OHなどを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</p> | | | | | | |
| テキスト | 垂見直樹・池田竜介編著『幼児教育・保育のための教育方法論』ミネルヴァ書房、2021。 | | | | | | | |

| | |
|--|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学習評価の方法</p> | <p><学習評価の観点> 学習評価の観点は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「専門的学習成果」については、教育目標にも掲げた（１）から（６）の観点に基づき行う。 <ul style="list-style-type: none"> （１）教育の方法論 （２）教育の技術 （３）情報機器及び教材の活用 （４）教育課程の意義 （５）教育課程編成の方法 （６）カリキュラム・マネジメント ●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「価値・意見」、情報リテラシー・数量的スキル」及び「論理的思考力」の獲得の状況に基づき行う。 <p><学習評価の方法> 学習評価は以下の方法により実施することとする。 なお、それぞれの学習評価については、その都度内容等に関するフィードバックを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> （１）定期試験（60点） 「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）（３）、及び（４）～（６）までにかかる内容についての定期試験（60点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。 （２）指導案作成（汎用的学習成果）（40点） 「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「指導案作成」の得点をもって行う。 （３）その他 ただし、学習評価の方法（１）（２）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、以下のケースに応じて減点することとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（1点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS等）」（2点） |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">注意事項</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●定期試験 <ul style="list-style-type: none"> ・「学則施行細則」第7条により、<u>本科目について3分の2以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし）。</u> ・「学則施行細則」第7条により、学習評価は100点法をもって採点し、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可とする。 ●再試験 <ul style="list-style-type: none"> ・「学則施行細則」第7条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、<u>講義及び演習の授業科目の再試験は100点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目については、学習評価の方法における（２）（３）（４））は含めず、再試験による60点以上の得点者はすべて60点の学習評価とする。</u> ●追試験 <ul style="list-style-type: none"> ・「学則施行細則」第7条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、<u>追試験による80点以上の得点者はすべて80点の学習評価とする。</u> <p><参考図書></p> <ul style="list-style-type: none"> ・師岡章編著『幼児教育の指導法』放送大学教育振興会、2015。 ・中川一史ほか編著『教育のためのICT活用』放送大学教育振興会、2017。 ・田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|--|
| <p>1 回</p> | <p><オリエンテーション、教育方法の基礎理論> (都田)</p> <p>○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、現代教育・保育の原点ともいえるフレーベルの思想と実践をおさえながら、現代の教育・保育について考える。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 ・テキスト第1章 (pp. 1-12) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、フレーベルの思想や実践から現代の教育・保育について考える。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及び自身のノートを見ながら、本時の内容をおさえる。</p> |
| <p>2 回</p> | <p><日本の幼児教育方法の歴史> (都田)</p> <p>○本時の目標 前近代から近代にかけての日本の幼児教育の歴史を、とくに教育方法という面に焦点をあてながら理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第2章 (pp. 13-22) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 前近代から近代にかけての日本の幼児教育の歴史を、教育方法という面から理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しながら、本時の内容を整理する。</p> |
| <p>3 回</p> | <p><環境を通して行う教育> (都田)</p> <p>○本時の目標 日本における幼児教育・保育の方法である「環境を通して行う教育」の考え方を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第3章 (pp. 23-32) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「環境を通して行う教育」について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しながら、本時の内容を整理する。</p> |
| <p>4 回</p> | <p><子どもの育ちと物的環境・人的環境・社会的環境①> (都田)</p> <p>○本時の目標 子どもの育ちと「物的環境」「人的環境」「社会的環境」の関係について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第4章・5章・6章 (pp. 33-69) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 子どもの育ちと「物的環境」「人的環境」「社会的環境」の関係について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しながら、本時の内容を整理する。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|--------|---|
| 5 回 | <p><子どもの育ちと物的環境・人的環境・社会的環境②> (都田)</p> <p>○本時の目標 子どもの育ちと「物的環境」「人的環境」「社会的環境」の関係について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第4章・5章・6章 (pp. 33-69) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 子どもの育ちと「物的環境」「人的環境」「社会的環境」の関係について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しなが、本時の内容を整理する。</p> |
| 6 回 | <p><幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程①> (福野)</p> <p>○本時の目標 幼稚園などで育てようとしている資質・能力について整理するとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第7章 (pp. 70-78) で解説する。 ・授業で配付する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：本時の目標に書かれている用語について調べてくる。 復習事項：授業で配付された資料を読みながら、本時の内容を整理する。</p> |
| 7 回 | <p><幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程②> (福野)</p> <p>○本時の目標 幼稚園などで育てようとしている資質・能力について整理するとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第7章 (pp. 70-78) で解説する。 ・授業で配付する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：本時の目標に書かれている用語について調べてくる。 復習事項：授業で配付された資料を読みながら、本時の内容を整理する。</p> |
| 8 回 | <p><幼児教育・保育における情報機器 (ICT) > (原田)</p> <p>○本時の目標 ICT の環境整備とその利用を取り上げ情報機器の活用についての実態を把握する。さらに、子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することを学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第12章 (pp. 126-137) 及び授業で配布する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 情報活用能力及び ICT について理解し、情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：授業で配付された資料を読む。とくに、「情報活用能力」、「ICT」については自分の言葉で説明できるようにする。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|---|--|
| 9 回 | <p><情報活用能力と幼児教育・保育> (原田)</p> <p>○本時の目標 子どもたちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解し、保育者に必要な情報活用能力、とくに、保育者に必要な情報モラルもあわせて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第13章(pp. 138-149)及び授業で配布する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 現在の情報モラル指導モデルカリキュラムを理解し、情報機器の活用をする前の子供たちに情報モラルと情報活用能力の原点を身に付ける能力について理解する。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項:テキストの該当箇所を読む。 復習事項:授業で配付された資料を読む。とくに、子供たちに情報モラルを含んだ情報活用能力を身に付けるためにどうすればいいか考える。</p> |
| 10 回 ・ 11 回 ・ 12 回 ・ 13 回 | <p><教育の技術と教材の活用(保育指導案作成)①> (山本、都田)</p> <p>○本時の目標 年・月の保育計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて理解するとともに、具体的な指導案作成の基礎をおさえ、実際に指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第10章・第11章(pp. 104-125)及び授業で配付する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 『幼稚園教育要領』をもとに年・月の保育計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて説明できる。また、実際に指導案を作成できる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項:テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項:授業で配布された資料などももとに、本時の内容を整理し、理解を深める。</p> |
| 14 回 | <p><幼児期の学びと幼児理解に基づいた評価> (都田)</p> <p>○本時の目標 幼児期の教育における「主体的・対話的で深い学び」について考えるとともに、幼児期の教育の評価を幼児理解に基づきながら理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第8章・第9章(pp. 79-103)で解説する。</p> <p>○本時の目標 幼児期の教育における教育方法と幼児理解に基づく評価について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項:テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項:テキスト及び自身のノートを読み返しながら、本時の内容を整理する。</p> |
| 15 回 | <p><幼児教育・保育のこれから、総括> (都田・山本・福野・原田)</p> <p>○本時の目標 これからの幼児教育・保育がどのような方向性を目指していく「べき」かについて考える。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第14章(pp. 150-158)で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。</p> <p>○本時の目標 幼児教育・保育がどのような方向性を目指していく「べき」かについて考えている。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項:テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項:テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。</p> |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|---|--|--|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 幼児と環境 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 鈴木 久子 |
| 質問受付の方法 e-mail : hsuzuki@owc.ac.jp OH: 水曜日 14:40~16:10 M409 室 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | 教育目標 保育所保育指針および幼稚園教育要領における「環境」の教育的ねらいは「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」である。そこで本科目では、幼児が自ら興味や関心をもって環境に主体的に関わり、充実感や満足感を味わうことのできる体験について深く理解し、そのような幼児と環境との関わりを促進させる意図的な関わりに検討を加えていくのに必要な知識・技能を身に付ける。また、人的環境としての保育者の感性を養う。 | | | | | | |
| | 学生の学習成果 専門的学習成果： 子どもの発達・成長に重要な「環境」に関する様々な知識・技能及び感性を身に付ける。 汎用的学習成果： 保育者は子どもにとっては人的環境として子どもの環境の一部であることを自覚し、保育者として求められる態度・信念を獲得する。また、自主的に学ぶ姿勢を身に付ける。 | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | (講義・ 演習 ・実験・実習・実技) ・自然遊び・科学遊び・生活遊び・室内ゲーム等の演習を行い、環境との豊かなかかわりを育むための保育者の援助と配慮事項を子ども視点で考察し、まとめる。 ・植物を栽培しその観察記録をノートにまとめる。 ・毎回授業後には振り返りタイムを設定(シャトルカードに記入)する。 | | | | | |
| | 予習・復習 | 予習事項：「授業回数別内容」に記された内容について90分間以上調べてから授業に臨む。 復習事項：保育現場で実際に計画・実践する場合を想定して90分間以上かけて授業内容をノートにまとめる。予習・復習の取り組み状況は主にノート点検により確認する。 | | | | | |
| | テキスト | ・『保育内容 環境』 神長美津子ら編 光生館 2018年 その他適宜資料を配布する。保育内容 ＊授業用に冊子ノートを準備し、毎回、まとめと授業後の振り返り等を記入しておくこと。適宜、求められた日に点検を受ける。 | | | | | |
| 学習評価の方法 | ＊学習成果と受講態度を学習評価の基準とする。 具体的には、受講態度、レポート、定期試験を総合的に評価する。 専門的学習成果：定期試験(70%) 汎用的学習成果：受講態度(20%)、レポート(10%) ＊受講中の授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、1回につき1点の加点機会をも設ける。 | | | | | | |
| 注意事項 | 【参考図書】 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』文部科学省厚生労働省フレーベル館、2018年 ・『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』国立教育政策研究所教育課程研究センター、東洋館出版社、2015年 ・『「そだててあそぼう 3」 サツマイモの絵本』農山漁村文化協会、2001年 ・『子どもと環境—基本と実践事例—』田尻由美子・武藤隆編、同人書院、2011年 ・保育内容 環境 —基礎的事項の理解と指導法— 岡 健 編 建帛社、2019年 ・「保育内容環境」酒井幸子・守巧萌文書林、2016年。 ・無藤隆監・福元真由美編『事例で学ぶ保育内容 領域環境』萌文書林、2013年 | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|---|
| <p>1 回</p> | <p><オリエンテーション><環境とは，保育者の役割とは> 本科目のねらい，授業計画，学習評価方法について確認する。さらに，「保育者の役割」，「環境」のねらいや内容について理解する。 ○活動内容：オリエンテーション，「環境」のねらい，保育者の役割 ○学習成果：領域「環境」の概要について知り，そのねらいや内容を理解するとともに，子どもを取り巻く環境，保育者の役割について説明できる。 ○復習事項：子どもを取り巻く環境，領域「環境」のねらいや内容が言える。 ○予習事項：子どもにとっての環境とは何か調べてくる。</p> |
| <p>2 回</p> | <p><自然を用いた遊び①>自然と触れ合い豊かな感性を育む子ども体験，保育者体験をする。 ○活動内容 自然に親しみ，植物や生き物に触れる体験（目隠しイモムシの演習と気づき） ○学習成果「目隠しイモ虫」になり五感を通して自然を感じる体験ができる。保育者の配慮事項や援助方法を子ども視点で考察できる。 ○復習事項：体験活動をもとに他に春を感じるものを探す。 ○予習事項：自分の周りの自然を見直してくる。 *目隠しの準備</p> |
| <p>3 回</p> | <p><自然を用いた遊び②>数量や図形を活用し好奇心や探求心を育む活動体験からその援助と配慮事項を理解する。 ○活動内容 自然の中から似た形探し，擦り出し ○学習成果 情報機器により葉っぱ調べを行い，数量や図形を活用して好奇心や探求心を育む活動における援助や配慮事項を体験する。 ○復習事項：体験活動をもとに疑問点は調べ，指導略案にまとめる。 ○予習事項：子どもにとっての身近な自然について調べてくる *畑を耕す服装</p> |
| <p>4 回</p> | <p><保育活動における安全管理>危険予知トレーニングの演習の仕方を知り，グループ学習により野外活動時等における安全管理の仕方を身に付ける。 ○活動内容 危険予知トレーニング演習，安全管理 ○学習成果 危険予知トレーニングの演習を行い，野外活動時等における安全管理の仕方が分かる ○復習事項：時期・場所別による危険予知トレーニングを行うことを復習とする。 ○予習事項：子どもにとって環境を構成する要素とは何か調べてくる。</p> |
| <p>5 回</p> | <p><春のキャンパスマップ>季節により自然や人間の生活に変化があることに気づくことを目的とした活動を体験し，その援助と配慮事項を理解する。 ○活動内容 春のキャンパスマップづくり ○学習成果 春のキャンパスマップ作りを体験し，春や愛校心を感じることができる。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。 ○予習事項：キャンパスに潜む危険を子どもの視点で考えてくる。 *クレヨンか色鉛筆の準備</p> |
| <p>6 回</p> | <p><科学遊び①>風車を作り，それを使った遊びの演習を通して，身近な物や遊具に興味をもって関わり，好奇心や探求心を育む科学的遊びの援助と配慮事項を理解する。さらに評価のやり方を理解し，模擬保育とその繰り返しを通して改善する視点を身に付ける。 ○活動内容 風車づくり，振り返り・改善 ○学習成果 風車作りを体験し，実践に向けての指導案を作成する。さらに振り返り，指導案を修正することができる。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。 ○予習事項：なぜ風車は回るのかを考えてくる。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|---------|---|
| 7 回 | <p><科学遊び②>身近な石鹸を用いたシャボン玉演習を通して、子どもの好奇心探求心を育む活動の援助と配慮事項を理解する。</p> <p>○活動内容：シャボン玉遊び</p> <p>○学習成果：シャボン玉遊びの活動体験から援助と配慮事項を知る。</p> <p>○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項：子どもの視点で活動に潜む危険やねらいを達成するための工夫を考えてくる。</p> |
| 8 回 | <p><飼育と栽培>サツマイモについてのルーツや栄養価、栽培方法、植え方、世話や観察の仕方について理解し、サツマイモとアサガオの植え付けを行う。観察記録を通して、身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする心を育む活動の援助と配慮事項を理解できる。</p> <p>○活動内容：サツマイモについての理解、植え付け、「環境」と「生活科」のつながり</p> <p>○学習成果：アサガオとサツマイモの植え付けをし、生命を育てていこうとする心構えをもつことができる。</p> <p>○復習事項：今後、成長過程を観察・記録することを復習とする。</p> <p>○予習事項：サツマイモの栽培方法について調べてくる。</p> |
| 9 回 | <p><乳幼児期における自然体験>年齢・発達に沿った自然（太陽・水・空気・風など）との関わり方・保育活動への活用方法について理解し指導案を作成する。</p> <p>○活動内容：自然との関わりにおける保育活動についての想起、指導案作成</p> <p>○学習成果：自然（太陽・水・空気・風など）それぞれの保育活動への活用方法について想起し、自分なりに指導案が作成できる。</p> <p>○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項：乳幼児期の発達に応じた自然の中での保育活動について考えてくる。</p> |
| 10 回 | <p><生活遊び①>身の回りにある廃材などの素材を利用した廃材のアート(羽子板)の演習を通して、身の回りの物に愛着をもつことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解する。さらに評価のやり方を理解し、模擬保育とその繰り返しを通して改善する視点を身に付けるようにする。</p> <p>○活動内容：羽子板づくり・指導案作成、振り返り・改善</p> <p>○学習成果：廃材のアート(羽子板)の演習を通して、身の回りの物に愛着をもつことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解する。さらに振り返り、修正することができる。</p> <p>○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項：身の回りの廃材で素材になる牛乳1ℓパックを1つ準備する。</p> |
| 11 回 | <p><生活遊び②>数字のサイコロやすごろくを作成して遊ぶ演習を通して、日常生活における数量や図形など親しむことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解する。</p> <p>○活動内容：さいころとすごろくづくり</p> <p>○学習成果：数量や図形などに親しむことを目的にした活動の援助と配慮事項を理解する。</p> <p>○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項：身の回りの物を用いたスタンプ遊びについて調べてくる。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|---------|--|
| 12 回 | <p><室内ゲーム①>動物あてゲームや動物しりとりを通して、さまざまな生き物の生態や生活に関係の深い施設について興味・関心をもつ活動の援助と配慮事項を理解する。</p> <p>○活動内容: 動物あてゲーム, 動物しりとり</p> <p>○学習成果: ゲーム体験を通しての援助や配慮事項を理解する。</p> <p>○復習事項: 体験活動をもとに指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項: 室内でできる動物に関する環境ゲームについて考えてくる。</p> |
| 13 回 | <p><室内ゲーム②>昔遊び(しりとりや数の童歌)の演習を通して、日本の伝統文化(お正月行事)や国旗にふれるとともに、日常生活における必要感に基づく数量感覚を養う活動の援助と配慮事項を理解する。</p> <p>○活動内容: 昔遊びや伝統文化-PCによる情報機器の活用, 国旗作成</p> <p>○学習成果: 情報機器を活用して調べた伝統文化や国旗, 昔遊びによる活動の援助や配慮事項を理解する。</p> <p>○復習事項: 体験活動をもとに指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項: 地域に残る童歌や遊びについて調べてくる。</p> |
| 14 回 | <p><科学遊び③>色水遊びや押し花の演習を通して、自然の身近な事象に関心をもち、取り入れた科学的遊びの援助と配慮事項を理解する。</p> <p>○活動内容: 「環境」と小学校での「生活科」とのつながり, 色水遊びや押し花の演習</p> <p>○学習成果: 色水遊びや押し花の演習の科学的遊びの援助と配慮事項を理解する。</p> <p>○復習事項: 体験活動をもとに指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項: どんな植物で色水遊びをしたらよく染まるのかを調べてくる。</p> |
| 15 回 | <p><幼児における環境教育>現代的課題や保育実践の動向を知り、子どもが自ら取り組む豊かな環境の設定と保育者としての役割や心構えについて、理解を深めることができ、「環境」のねらいと内容について振り返ることができる。</p> <p>○活動内容: 「環境」のねらいと内容・現代的課題や保育者の役割</p> <p>○学習成果: 「環境」のねらいや内容について総まとめをするとともに現代的課題や保育者としての役割について理解することができる。</p> <p>○復習事項: 豊かな環境と保育者の役割について復習する。</p> <p>○予習事項: 演習内容と指針のねらいや内容との関連について調べてくる。</p> |

令和3年度教育計画

| | | | | | | | |
|-----|-------------|------|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 「幼児と環境」の指導法 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 鈴木 久子 |
|-----|-------------|------|----|-----|---|------|-------|

質問受付： e-mail : hsuzuki@owc.ac.jp OH:水曜日 14:40～16:10 M棟 409号

| | | |
|--------------|--|--|
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標</p> <p>保育所保育指針および幼稚園教育要領における「環境」の教育的ねらいは「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」である。そこで本科目では、このねらいを達成するための領域「環境」のねらい及び内容について実際に五感を通して理解を深め、幼児の発達に即して、「環境」との豊かなかかわりを育むための保育者の援助と配慮事項を子ども視点で考察し、主体的・対話的な深い学び目指した領域「環境」の具体的な指導場面を構想する手法を身に付けることを目標とする。</p> <p>学生の学習成果</p> <p><専門的学習成果></p> <p>① 身近な環境・自然・地域の様々な事象に関心をもち、好奇心や探求心を育む活動内容について幼児の発達や学びの過程を理解し、計画・実践する手法を身に付ける。</p> <p>② 物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする活動内容を、幼児の発達や学びの過程を理解し、計画・実践する手法を身に付ける。</p> <p>③ 栽培活動を通して生命の尊さに気づき、責任ある行動を育む保育活動の計画・実践に係る手法を身に付ける。</p> <p>④ 野外・園外活動等における安全管理に係る基本的な知識・方法を身に付ける。</p> <p>⑤ 幼稚園要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、「環境」のねらい及び内容を理解する。</p> | |
| | 教育方法 | <p>進 授 業 方 法</p> <p>〔講義〕・〔演習〕・実験・実習</p> <p>本科目は、ロールプレイ、ディベート等も積極的に取り入れて科学的な概念について理解していく。また、演習も実施し、知識だけでなく体験を通して理解する。</p> <p>復 習 予 習</p> <p>予習事項：「授業回数別教育内容」について90分間以上予習し授業に臨むこと。 復習事項：講義内容を90分間以上復習し、要点については理解を深めること。 予習復習の取り組み状況は、適宜ノート点検により確認する。 予習・復習の取り組み状況は主にノート点検により確認する。</p> <p>ト キ テ ス</p> <p>・『保育内容 環境』 神長美津子ら編 光生館 2018年</p> <p>その他適宜資料を配布する。</p> |
| 学習評価の方法 | <p>*学習成果と受講態度を学習評価の基準とする。 具体的には、下記の配分により総合的に評価する。 <専門的学習成果>：定期試験（60%）、保育活動計画（10%） <汎用的学習成果>：毎回の授業内課題（20%）、グループ別模擬保育（10%） 授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、1回につき1点の加点の機会を設ける。</p> | |
| 注意事項 | <p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒井幸子・守巧「保育内容環境」萌文書林、2016年。 ・市川伸一編 『現代認知心理学5 学習と発達』 北大路書房 2010年 ・福沢周亮監修『保育の心理学—子どもの心身の発達と保育実践—』教育出版 2012年 ・文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年 ・国立教育政策研究所教育課程研究センター、『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』東洋館出版社、2015年 ・保育内容 環境 —基礎的事項の理解と指導法— 岡 健 編 建帛社、2019年 ・無藤隆監・福元真由美編『事例で学ぶ保育内容 領域環境』萌文書林、2013年 | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>【オリエンテーション】本科目の授業計画，学習評価方法等について理解する。</p> <p>【保育と環境】本科目の計画・評価方法等を理解するとともに、幼児が取り巻く環境と関わり、いかにして科学の世界に入っていくのかを理解する。</p> <p>○活動内容:オリエンテーション、環境との関わり、アサガオの種の取り入れと生命の循環</p> <p>○学習成果: 環境との関わり方について説明できる「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れようとする」ことによって初めて身近な環境や事象となる。</p> <p>○復習事項: 環境との関わりについて復習する。</p> <p>○予習事項: 科学とは何か、幼児にとって遊びとは何か調べてくる。 * 畑仕事の服装</p> |
| 2 回 | <p>【育ちと環境とのかかわり】幼児を取り巻く環境（物的、人的、社会的、安全等）と、幼児の発達におけるそれぞれの環境の重要性について理解する。</p> <p>○活動内容: 育ちと環境の関わり</p> <p>○学習成果: 発達における環境の重要性について説明できる。</p> <p>○復習事項: 復習事項 発達と環境について復習する。</p> <p>○予習事項: テキストの該当箇所を読んでくる。</p> |
| 3 回 | <p>【生物学者としての子ども①】生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。</p> <p>○活動内容: 「子どもにおける生物概念の発達」(資料)、どんぐりゴマ</p> <p>○学習成果: 子どもの生物学的概念に対する発達による違いが分かる。</p> <p>○復習事項: 生物学的概念について復習し体験をもとに指導略案を作成する。</p> <p>○予習事項: どんぐりゴマの作り方について調べてくる。</p> |
| 4 回 | <p>【数学者としての子どもー自然との関わり】数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解し、指導案を作成する。</p> <p>○活動内容: どんぐり拾い、数概念ー論理数学的知能 指導案の作成</p> <p>○学習成果: 数概念に対する理解の発達について分かり、指導案を作成する。</p> <p>○復習事項: 数概念の特徴について復習し、指導略案を作成する。</p> <p>○予習事項: 数概念とは何か調べてくる。</p> |
| 5 回 | <p>【認知的発達の特徴】乳幼児の認知的発達の特徴と道筋を理解する。</p> <p>○活動内容: 認知的発達の特徴と道筋</p> <p>○学習成果: 認知的発達について説明できる。</p> <p>○復習事項: 認知的発達について復習する。</p> <p>○予習事項: 認知的概念とは何か調べてくる。</p> |
| 6 回 | <p>【生物学者としての子ども②】</p> <p>生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。</p> <p>○活動内容: 「子どもにおける生物概念の発達」(資料)、芋ほり、サツマイモ収穫の感想文</p> <p>○学習成果: 子どもの生物学的概念に対する発達による違いが分かる。</p> <p>○復習事項: 生物学的概念の特徴について復習し体験をもとに指導略案を作成する。</p> <p>○予習事項: サツマイモの活用方法について調べてくる。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|--|
| <p>7 回</p> | <p>【生物学者としての子ども③】図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について子ども体験をし、配慮事項について理解する。</p> <p>○活動内容：落葉・木の実拾い、植物名調べ</p> <p>○学習成果：秋の季節を感じるとともに自然の中にいろんな図形を見つける活動体験を通して配慮事項を考察し保育を構想する。</p> <p>○復習事項：特徴的な植物について復習し指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項：秋に紅葉する校内の樹々について調べてくる。</p> |
| <p>8 回</p> | <p>【生物学者としての子ども④】生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。</p> <p>○活動内容：サツマイモのツル⇒なわとび、リース作り、芋料理</p> <p>○学習成果：サツマイモの活用方法について分かる。</p> <p>○復習事項：サツマイモの特徴について復習し指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項：準備物を調べて準備する。</p> |
| <p>9 回</p> | <p>【物理学者としての子ども①】物理的事象との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する（スライム）。</p> <p>○活動内容：スライムの原理、スライムづくり、発達に応じた対応―「磁石遊び」（資料）</p> <p>○学習成果：幼児の物理概念の特徴について分かる。</p> <p>○復習事項：磁石への興味関・関心度について復習し指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項：ダイラタンシー現象について調べてくる。</p> |
| <p>10 回</p> | <p>【物的環境―物理学者としての子ども③】物理的事象との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について理解する（凧*ゴミ袋準備）。</p> <p>○活動内容：凧が上がる原理、廃材を利用した凧作り、発達に応じた対応</p> <p>○学習成果：凧が上がる原理が説明でき、発達に応じた興味・関心が分かる。</p> <p>○復習事項：凧あげについて復習し指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項：凧は、なぜあがるのか調べてくる。</p> |
| <p>11 回</p> | <p>【社会的環境―情報・施設】乳幼児が興味・関心を抱ける環境資源を調べ、それを生かした保育計画を立てる。</p> <p>○活動内容：生活に関係が深い情報・施設 地域などでの五感を使った体験（防災センター、公園、消防署、動物園、博物館、神社、地域の家への果物採り）</p> <p>○学習成果：地域の環境資源と保育についての指導案を作成する。</p> <p>○復習事項：社会的環境について復習し指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項：地域の環境資源とはどんなものがあるのか調べてくる。</p> |
| <p>12 回</p> | <p>【物的環境―文字・標識に対する感覚】乳幼児を取り巻く標識や文字等の出会い、それらへの興味・関心などの育ちを捉え、環境の構成や援助の在りを理解する。</p> <p>○活動内容：文字・標識に対する感覚 演習ワーク⇒「設計図を描いてみよう」</p> <p>○学習成果：文字・標識に対する感覚を豊かにするためのかかわり方が分かる。</p> <p>○復習事項：文字・標識に対する興味・関心のもたせ方について復習し指導略案にまとめる。</p> <p>○予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|---|
| <p>13 回</p> | <p>【環境の現代的課題】 ESDなどの幼児を取り巻く環境の現代的課題について理解する。 ○活動内容 安全を確保する「環境」 知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育（ESD）— ディベート⇒「子どもに積ませたい経験は？」 ○学習成果 環境の現代的課題について知り、保育構想の向上に取り組む。 ○復習事項 現代的課題について振り返る。 ○予習事項 現代的課題について調べてくる。</p> |
| <p>14 回</p> | <p>【生物学者としての子ども②—生物・自然との関わり】 生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解し（チューリップ、大根）。指導案を作成する。 ○活動内容： 生物概念について、大根の収穫と調理 ○学習成果： 球根や種からの育て方を理解し、部分指導案を作成する。 ○復習事項： 球根や種からの成長過程について復習し指導略案にまとめる。 ○予習事項： テキストの該当箇所を読んでくる。</p> |
| <p>15 回</p> | <p>【まとめ⇒人的環境としての保育者】 幼児の生活における活動は科学的知識の基礎の獲得と意味づけし、保育者としてどう支援していけば科学的思考が育つのかまとめる。 ○活動内容 授業内容の振り返り ○学習成果 環境へのかかわり方について振り返り、まとめる。 ○復習事項 日常生活における活動に対する捉え方や支援方法について復習する。 ○予習事項 科学とは、遊びとは、学びとは、今までの学習内容を振り返る。</p> |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|----------------------|---|--|----|--------------------------|---|------|-------|
| 科目名 | 幼児と言葉 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 浦上 博文 |
| 質問受付の方法:授業終了後、B404にて | | | | e-mail:urakami@owc.ac.jp | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</p> <p>本授業は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」実践的指導力のある保育者を養成することを目指し、以下の5点を教育目標とする。</p> <p>①人間にとっての言葉の役割を理解する。 ②乳幼児の言葉の発達・その過程における特徴や諸問題を理解する。 ③幼児に対する、適切な言葉の援助のしかたを理解する。 ④幼児にとっての児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）の意義を理解する。 ⑤幼児が言語感覚を豊かにする実践（言葉遊び）について理解する。</p> <p>学生の学習成果：専門的学習成果として、教育目標に掲げる5点に関する知識を修得する。また、汎用的学習成果として、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）・信念（保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢など）、価値・意見（社会人・保育者として求められる価値観や意見）を涵養する。</p> | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | <p>（講義・演習・実験・実習・実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標①・②・③について。テキストに沿って講義を行う。 ・教育目標④・⑤については、実演を行いつつテキスト・補助資料に沿って講義を行う。また、受講生が模擬実践を行う。 ・小テストについては、終了後正解を解説する。課題については、見本を提示する。 | | | | | |
| | 予習・復習 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。 <p>1回の授業に対する予習・復習の時間はそれぞれ90分とする。</p> | | | | | |
| | テキスト | <p>岡田明編『新訂子どもと言葉』萌文書林、2018年。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料を配付し、内容を補う。 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>以下の6点の学習成果についてその獲得度合を量的に評価し、配点を「①+②+③：④+⑤：⑥=60：25：15」とする。</p> <p>①人間にとっての言葉の役割を理解する（期末試験）。 ②乳幼児の言葉の発達・その過程における特徴や諸問題を理解する（期末試験）。 ③幼児に対する、適切な言葉の援助のしかたを理解する（期末試験）。 ④幼児にとっての児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）の意義を理解する（課題） ⑤幼児が言語感覚を豊かにする実践（言葉遊び）について理解する（課題）。 ⑥態度・信念、価値・意見を身に付ける。</p> <p>態度・信念、価値・意見の評価は、全授業を通してシャトルカードにより行う（1回分1点、記載不十分の場合減点）。担当教員の指導に従わず、社会人としてのマナー・学習態度、保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢などが改善されない場合、評価点より減ずる（1件1点）。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡本夏木『子どもとことば』岩波新書、2003年。 | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|--------|--|
| 1 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス・テキスト等を用いたオリエンテーションにより、本授業の概要を理解する。 ・保育者としての言葉の在り方、人間生活における言葉の役割について理解する（前半）。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・テキスト（p. 2～10の前半）を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業の概要を理解し、保育者としての言葉の在り方、人間生活における言葉の役割を説明できる。 <p>予習：シラバス・テキストの該当箇所を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分）</p> <p>復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 2 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間生活における言葉の役割について理解する（後半）。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p. 2～10の後半）を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間生活における言葉の役割を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分）</p> <p>復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 3 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴のうち、誕生から1歳前後までの言葉の発達と特徴（クーイング・喃語・初語・一語文等）を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p. 11～14）を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生から1歳前後までの言葉の発達と特徴を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分）</p> <p>復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 4 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴のうち、1歳半から3歳のころまでの言葉の発達と特徴（二語発話・幼児語・幼児音等）を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p. 14～19）を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳半から3歳のころまでの言葉の発達と特徴を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分）</p> <p>復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |

| | |
|--------|--|
| 5 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴のうち、4歳以降の言葉の発達と特徴（多様な品詞の使用・文字への関心等）を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p.19～23）を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4歳以降の言葉の発達と特徴を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分）</p> <p>復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 6 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語に関わる障害、障害のある幼児に対する対処の仕方・指導の在り方について理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴」に関する復習テスト ・テキスト（p.28～36）を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習テストにより知識の修得状況を認識できる。 ・言語に関わる障害、障害のある幼児に対する対処の仕方・指導の在り方を説明できる。 <p>予習：復習テストに向けた学習をする。テキストの該当箇所を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分）</p> <p>復習：復習テストの間違いを確認するとともに、テキスト・ノートを読み返し学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 7 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の発達を促す諸条件について、人とのかかわり・子どもの生活・遊び等の側面から理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p.23～27 p.53～60）を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の発達を促す諸条件について、人とのかかわり・子どもの生活・遊び等の側面から説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分）</p> <p>復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 8 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の言葉を育むために必要な保育者の援助のうち、言葉の発達段階に応じた言葉かけの仕方について理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p.68～103）を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の発達段階に応じた言葉かけの仕方について説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分）</p> <p>復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |

| | |
|---------|---|
| 9 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の言葉を育むために必要な保育者の援助のうち、絵本の読み聞かせに関する知識（発達段階に応じた選書・読み聞かせの方法等）を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト（p. 107～111）・ 補助資料を解説する（実演を含む）。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の読み聞かせの仕方について説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分）</p> <p>復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 10 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の言葉を育むために必要な保育者の援助のうち、紙芝居等に関する知識（舞台の使用法・演じ方等）を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト（p. 111～122）・ 補助資料を解説する（実演を含む）。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙芝居の演じ方について説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分）</p> <p>復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 11 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を通して、第9・10回の授業で学んだ知識を修得するとともに幼児の発達における児童文化財の意義について理解する（1回目）。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を行う。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の読み聞かせ・紙芝居の演じ方の基礎的な知識を修得するとともに児童文化財の意義を説明できる。 <p>予習：各自が選んだ絵本あるいは紙芝居の練習を行う。（90分）</p> <p>復習：絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践から得た成果と課題、児童文化財の意義について確認する。（90分）</p> |
| 12 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を通して、第9・10回の授業で学んだ技能を修得するとともに幼児の発達における児童文化財の意義について理解する（2回目）。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を行う。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の読み聞かせ・紙芝居の演じ方の基礎的な知識を修得するとともに児童文化財の意義を説明できる。 <p>予習：各自が選んだ絵本あるいは紙芝居の練習を行う。（90分）</p> <p>復習：絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践から得た成果と課題、児童文化財の意義について確認する。（90分）</p> |

| | |
|---------|--|
| 13 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が言葉の楽しさや美しさに気づき言葉を豊かにする実例を知るとともに、言葉遊びの基礎的な知識を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助資料によって、幼児が言葉の楽しさや美しさに気づき言葉を豊かにする実例、言葉遊びの基礎的な知識を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が言葉の楽しさや美しさに気づき言葉を豊かにする実例と、言葉遊びの基礎的な知識を説明できる。 <p>予習：補助資料を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分） 復習：補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 14 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の言葉の発達とそれに応じた言葉遊びとの関連を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳児、3歳児、4歳児、5歳児向けの言葉遊びを体験し、言葉の発達と言葉遊びとの関連を考察する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の言葉の発達とそれに応じた言葉遊びとの関連を説明できる。 <p>予習：補助資料を通読し、概要を理解するとともに疑問点を明らかにする。（90分） 復習：言葉遊びの体験と考察から得た学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 15 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の言語を育むという点から自己課題を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス・テキスト・補助資料・ノートによってこれまでの授業を振り返り、自己課題を考察する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の言語を育むという点から、自己課題を説明できる。 <p>予習：シラバス・テキスト・補助資料・ノートによってこれまでの授業内容を振り返る。（90分） 復習：保育者を目指す自己課題を確認するとともに、期末試験に向けて復習する。（90分）</p> |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|----------------------|---|--|----|--------------------------|---|------|-------|
| 科目名 | 「幼児と言葉」の指導法 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 浦上 博文 |
| 質問受付の方法：授業終了後、B404にて | | | | e-mail：urakami@owc.ac.jp | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</p> <p>本授業は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」実践的指導力のある保育者を養成することを目指し、以下の7点を教育目標とする。</p> <p>①幼稚園教育の基本を踏まえつつ領域「言葉」のねらい及び内容、評価の在り方を理解する。②領域「言葉」と小学校教育との関連を理解する。③保育者としての言葉の在り方を理解する。④領域「言葉」関わる現代的課題（言語障害のある幼児への支援）を理解する。⑤幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について理解する。⑥児童文化財の活用法を修得する。⑦言葉遊びの指導案作成・模擬実践・振り返りを通して、保育実践力を修得する。</p> <p>学生の学習成果：専門的学習成果として、教育目標に掲げる7点に関する知識及び技能を修得する。また、汎用的学習成果として、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）・信念</p> | | | | | | |
| | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標①・②・③・④・⑤：テキストに沿って講義をする。 ・目標⑥：児童文化財を通しての援助については、実物・実演等によって説明する。受講者全員が絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を行う（個人）。 ・目標⑦について。受講者全員が言葉遊びの模擬実践を行う（グループ）。 | | | | | |
| 教育方法 | 予習・復習 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。 ・1回の授業に対する予習・復習の時間はそれぞれ90分とする。 | | | | | |
| | テキスト | <p>田上貞一郎・高荒正子著『新訂保育内容「言葉」』萌文書林、2016年。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料を配付し、内容を補う。 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>以下の8点の学習成果についてその獲得度合を量的に評価し、配点を「①+②+③+④：⑤+⑥+⑦：⑧=50：35：15」とする。</p> <p>①幼稚園教育の基本を踏まえつつ領域「言葉」のねらい及び内容を理解する（期末試験）。②領域「言葉」と小学校教育との関連を理解する（期末試験）。③保育者としての言葉の在り方を理解する（期末試験）。④領域「言葉」関わる現代的課題（言語障害を持つ幼児への支援）を理解する（期末試験）。⑤幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について理解する（課題）。⑥児童文化財の活用法を修得する（課題）。⑦言葉遊びの指導案作成・模擬実践・振り返りを通して、保育実践力を修得する（課題）。⑧態度・信念、論理的思考力を身に付ける。</p> <p>態度・信念の評価は全授業を通してシャトルカードにより行う（記載不十分の場合減点）。論理的思考力の評価は、主に上記⑦において行う。担当教員の指導に従わず、社会人としてのマナー・学習態度、保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢などが改善されない場合、評価点より減ずる（1件1点）。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | 参考図書等 | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|--------|--|
| 1 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス・テキスト等を用いたオリエンテーションにより、本授業の概要を理解する。 ・保育者としての言葉の在り方について理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・テキスト (p. 10～22) を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業の概要を理解し、保育者としての言葉の在り方を説明できる。 <p>予習：シラバス・テキストの該当箇所を通読する。(90分)</p> <p>復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。(90分)</p> |
| 2 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言葉の発達・言語障害のある幼児への支援について理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト (p. 22～44) をもとに、乳幼児の言葉の発達・言語障害のある幼児への支援について解説する。 ・乳幼児の言葉の発達に関する映像資料を視聴する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言葉の発達、言語障害のある幼児への支援について説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。(90分)</p> <p>復習：映像資料を振り返りつつテキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。(90分)</p> |
| 3 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の基本、幼稚園教育要領領域「言葉」のねらい及び内容・指導上の留意点、評価の在り方を理解する。 ・小学校教育とのつながりを理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト (p. 155～166) をもとに、幼稚園教育の基本、幼稚園教育要領領域「言葉」のねらい及び内容・指導上の留意点、評価の在り方、小学校教育とのつながりを説明する。 ・文字遊びを体験し、幼児が文字等で伝える楽しさを経験できる教師の援助や環境構成について考察する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の基本、幼稚園教育要領領域「言葉」のねらい及び内容・指導上の留意点、評価の在り方、小学校教育とのつながりを説明できる。 ・幼児が文字等で伝える楽しさを経験できる教師の援助や環境構成について説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。(90分)</p> <p>復習：文字遊び体験を振り返りつつテキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。(90分)</p> |
| 4 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト (p. 45～68) をもとに、領域「言葉」の指導計画立案の方法を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。(90分)</p> <p>復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。(90分)</p> |

| | |
|--------|--|
| 5 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせに関する知識を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p. 74～92）・補助資料をもとに、実演を行いつつ絵本の読み聞かせに関する知識を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせに関する知識を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。（90分） 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 6 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・情報機器等に関する知識を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p. 93～107）・補助資料をもとに、実演を行いつつ紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・情報機器等に関する知識を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・情報機器等に関する知識を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。（90分） 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。（90分）</p> |
| 7 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回の講義で学んだ絵本の読み聞かせに関する技能を修得する。 ・模擬実践を振り返り、改善点を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、読み聞かせの模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、成果と改善点を明らかにする。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回の講義で学んだ技知識をもとに、不十分ながら模擬実践ができる。 ・模擬実践による成果と改善点を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。読み聞かせの練習をする。（90分） 復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。（90分）</p> |
| 8 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回目の模擬実践によって、読み聞かせに関する技能を向上させる。 ・2回目の模擬実践を振り返り、新たな改善点を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、絵本の読み聞かせの模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、新たな成果と改善点を明らかにする。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善点を活かして、読み聞かせの模擬実践ができる。 ・2回目の模擬実践による新たな成果と改善点を説明できる。 <p>予習：改善点を意識して読み聞かせの練習をする。（90分） 復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。（90分）</p> |

| | |
|---------|--|
| 9 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回の講義で学んだ紙芝居に関する技能を修得する。 ・模擬実践を振り返り、改善点を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、紙芝居の模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、成果と改善点を明らかにする。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回の講義で学んだ知識をもとに、不十分ながら模擬実践ができる。 ・模擬実践による成果と改善点を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。紙芝居の練習をする。（90分） 復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。（90分）</p> |
| 10 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回目の模擬実践によって、紙芝居に関する技能を向上させる。 ・2回目の模擬実践を振り返り、新たな改善点を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、紙芝居の模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、新たな成果と改善点を明らかにする。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善点を活かして、紙芝居の模擬実践ができる。 ・2回目の模擬実践による新たな成果と改善点を説明できる。 <p>予習：改善点を意識して紙芝居の練習をする。（90分） 復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。（90分）</p> |
| 11 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びに関する知識を理解する。 ・言葉遊びの指導案作成方法を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p.70～74）・補助資料をもと、言葉遊びに関する知識を解説する。 ・指導案作成の方法を解説する。 ・模擬実践のグループに分かれる（1グループ5名程度） ・各グループで、選択した言葉遊びに関する指導案を作成する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びに関する知識を説明できる。 ・言葉遊びの指導案を作成できる。 <p>予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。（90分） 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。指導案を確認する。（90分）</p> |
| 12 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践の準備を行う。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案に従って使用する教材を整え、リハーサルを行う。 ・第13・14回で実践するグループの順番を決める。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの指導案を説明できる。 ・模擬実践のリハーサルができる。 <p>予習：指導案の内容を確認し、準備する教材を確認する。（90分） 復習：模擬実践の流れを確認し、教材を点検する。（90分）</p> |

| | |
|---------|--|
| 13 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践を行う（前半グループ）。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践をする。 ・評価票によって自己評価・他者評価を行う（個人）。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案に従って、言葉遊びの模擬実践ができる。 ・模擬実践の評価ができる。 <p>予習：指導案に内容と準備した教材を確認する（前半グループ）。（90分） 復習：模擬実践を振り返り成果と改善点を明らかにする（前半グループ個人）。（90分）</p> |
| 14 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践を行う（後半グループ）。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践をする。 ・評価票によって自己評価・他者評価を行う（個人）。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案に従って、言葉遊びの模擬実践ができる。 ・模擬実践の評価ができる。 <p>予習：指導案を確認し、準備する教材を確認する（後半グループ）。（90分） 復習：模擬実践を振り返り成果と改善点を明らかにする（後半グループ個人）。（90分）</p> |
| 15 回 | <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践を振り返り、成果と改善点を明らかにする（グループ）。 ・これまでの授業を振り返り、幼児の言語を育むという点から自己課題を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス・テキスト・補助資料・指導案等によって、自己課題を考察する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬実践による成果と改善点を説明できる。 ・幼児の言語を育むという点から、自己課題を説明できる。 <p>予習：シラバス・テキスト・補助資料・ノート・指導案等によって、これまでの授業内容を振り返る。（90分） 復習：保育者を目指す自己課題を確認するとともに、期末試験に向けて復習する。（90分）</p> |

| 令和 3 年 度 教 育 計 画 | | | | | | | |
|--|--|--|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 幼児と表現Ⅱ | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 関野智子 |
| 質問受付：E棟 105 研究室 | | e-mail：sekinotomoko@gmail.com | | | | | |
| 教育 目 標 と 学 生 の 学 習 成 果 | <p>教育目標：本授業は、<u>実務経験のある教員等による授業科目である。</u> 保育者として、幼児の造形表現活動の場で適切な指導と援助ができるための知識と基礎技術の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の発達段階に応じて多様な造形表現があること、他者と関わりながら生活や遊びを通しての育つことについて理解する。 2. 幼児の造形活動における素材・用具についての扱い方と、発達段階を踏まえた援助を体験的に学ぶ。 3. 幼児のイメージを豊かにし感性を養うという観点で、環境構成と保育の展開について考えることができる。 <p>学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準をもち、明確に意見表明ができる力を育成する。</p> | | | | | | |
| | 授 業 の 進 め 方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題の保育における位置づけ、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 準備と片付けまでを含めて授業内容とする。 ④ 課題を通して学んだことを文章・イラスト・写真等で記録する。 ⑤ 課題ごとに自己評価を行い反省と課題を記す。 | | | | | |
| | 予 習 復 習 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題に関する図書を調べたり、目的に沿って材料を調達したりする。 ・課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を理解し技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。 ・必要に応じて記録写真を撮り、自己評価と記録を忘れないうちにまとめる。 <p>※予習および復習の時間はそれぞれ45分を目安とする。</p> | | | | | |
| テ キ ス ト | 『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』編：樋口一成 (株) 萌文書林 『折り紙遊び』福井晴子／編集(貸与) | | | | | | |
| 学 習 評 価 の 方 法 | <p>以下の5つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね3：3：2：1：1の比重で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児の発達段階に応じて多様な造形表現があることを理解した。 ② 造形素材・用具についての基礎知識と扱い方を知り、体験的にそれぞれの素材と技法の特徴、幼児が扱うときの諸注意を習得した。 ③ 幼児の造形活動に適切な環境を設定し、支援する能力視点を学んだ。 ④ 保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤ 幼児を指導する適正な価値・判断の基準をもち、明確に意見表明ができる。 | | | | | | |
| 注 意 事 項 | <p>子どもと一緒に発表会用のお土産制作を行うことが決定した場合、第14回の内容をお土産制作の時間に変更し、発表会準備の期間に制作の時間を差し込む。 オペレッタ実施時期に合わせて第8～9回の内容を移動させることがある。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>〈オリエンテーション：幼児と造形表現〉</p> <p>○本時の目標 幼児教育における造形表現の位置づけについて、授業の進め方および評価について、受講の注意等について理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの説明 ・チャイルドヴィジョンを作成し、幼児の視界を体感する。 ・幼児による実際の作品を鑑賞する。 ・児童画の発達過程について知る。 <p>○本時の学習成果：授業を受ける意味を学ぶとともに、造形を指導する保育者として求められる日常的な心がけ、視点について理解する。</p> <p>○予習と復習：自分の幼少期の作品を探す、記憶を辿る等を通し、授業内容の確認をする。</p> |
| 2 回 | <p>〈描画材 ①クレヨン・ペン・丸シール〉</p> <p>○本時の目標 乳児期（0歳～2歳）から手軽に扱える描画材の特徴・扱い方について体験的に理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレヨンやペンの特徴と、幼児が使用する際の注意点を、実際に使いながら確認する。 ・事務用丸シールを活用した表現を確認する。 <p>○本時の学習成果：乳児期（0歳～2歳）から手軽に扱える描画材の特徴・扱い方について体験的に理解する。</p> <p>○予習と復習：教科書14頁～21頁を読んで本時の復習をしておく。</p> |
| 3 回 | <p>〈描画材 ②水彩絵の具による多様な表現〉</p> <p>○本時の目標 発達段階にあわせた水彩絵の具や用具、環境設定について理解する。 水彩絵の具を使ったモダンテクニックによる表現を演習を通して確認する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具の特徴と留意点を教員が説明をする。 ・発達段階に合わせた活動例を確認し、モダンテクニック（デカルコマニー・スパッターリング・吹き流し・はじき）による演習を行う。 <p>○本時の学習効果：水彩絵の具の特徴を知り、それを活かした表現（はじき、吹き流し、混色など）と場の設定、援助のポイントを習得する。</p> <p>○予習と復習：教科書に掲載されている水彩絵の具を使った活動例を確認しておく。</p> |
| 4 回 | <p>〈描画材 ③絵具と筆によるドローイング〉</p> <p>○本時の目標 水彩絵の具によるドローイングの魅力と、発達段階に合わせた展開例について学ぶ。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具によるドローイング並びに発達段階に合わせた援助について理解する。 ・壁面に貼った用紙へのドローイングを体験する。 ・ポーズをとる人のドローイングを体験する。 ・相互鑑賞とドローイングの感想を発表する。 <p>○本時の学習効果：水彩絵の具によるドローイングの魅力と、発達段階に合わせた援助について学ぶ。</p> <p>○予習と復習：教科書に掲載されている水彩絵の具を使った活動例を確認しておく。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|--|
| <p>5 回</p> | <p>〈展開する絵～割りピンを活用して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 発達段階に配慮した割りピンを活用した平面作品づくりについて学ぶ。 ○本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・割りピンによる発達段階別展開例を見る。 ・発達段階別制作例に基づいた作品を1点、自分で考案した作品を1点完成させる。 ・相互鑑賞する。 ○本時の学習成果：子どもの発達の特性とその過程を理解した上で、与えられた素材（今回は割りピン）を活用した幼児にも楽しめる造形遊びを考案できる。 ○予習と復習：割りピンを活用した事例を調べておく。 |
| <p>6 回</p> | <p>〈楽しい舞台装置を作るために～大道具制作の基本1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 発表会活動を盛り上げる大道具制作に必要な基本的な立体物の制作方法、強度を上げるための木材加工について学ぶ。 ○本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・大道具で使用する材料について紹介をする。 ・グループごとに指示された大道具を制作。木材による補強の方法、解体しやすい作り方、道具の使い方について学ぶ。 ○本時の学習成果：強度が高く再利用可能な大道具の作り方について理解する。大道具用の素材や用具の基本的な扱い方を理解する。 ○予習と復習：次回の1時間では完成できそうにないグループは制作を進めておく。 |
| <p>7 回</p> | <p>〈楽しい舞台装置を作るために～大道具制作の基本2、その他小道具について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 各グループが作った大道具を相互鑑賞し、制作のポイントを確認する。 発表会準備で扱うその他の素材（絵の具、模造紙、不織布等）について知る。 ○本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・大道具を完成させ、相互鑑賞を行う（記録写真を撮影）。 ・材料を再利用できるよう大道具を解体する。 ・発表会等で使用する様々な素材の扱い方についてプリントで確認をする。 ○本時の学習成果：強度が高く再利用可能な大道具の作り方について理解する。発表会等で使用する他の素材について理解する。 ○予習と復習：大道具が解体できていないグループは作業を完了させておく。 |
| <p>8 回</p> | <p>〈オペレッタ 大道具・小道具制作1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 オペレッタの大道具・小道具制作を行う。 ○本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・オペレッタの発表会に向けて大道具・小道具の制作を行う。 ○本時の学習成果：安全で強度の高い大道具・小道具の制作を行うことができる。 ○予習と復習：次回で完成できないようならば空いた時間に制作を進めておく。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|--|
| <p>9 回</p> | <p>〈オペレッタ 大道具・小道具制作2〉</p> <p>○本時の目標 オペレッタの大道具・小道具を完成させる。</p> <p>○本時の活動 ・オペレッタの発表会に向けて大道具・小道具を完成させる。</p> <p>○本時の学習成果：安全で強度の高い大道具・小道具の制作を行うことができる。</p> <p>○予習と復習：完成できていないグループは空いた時間に制作を進めておく。</p> |
| <p>10 回</p> | <p>〈自然物を使って1〉</p> <p>○本時の目標 自然物を活用した表現活動の面白さ、可能性について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・学内で落ち葉やドングリなどを集める。それらの使用上の注意点を学ぶ。</p> <p>・グループで集めた自然物を観察、自分たちの観点で分類を試みる。</p> <p>・自然物を様々な素材の描画材でスケッチを行う。</p> <p>・自然物を用いた構成遊びを行う。</p> <p>・相互鑑賞、記録写真撮影を行う。収集した自然物は次回まで保存する。</p> <p>○本時の学習成果：身近な自然物を活用した造形遊びの魅力と展開例を考えることができる。</p> <p>○予習と復習：教科書で自然物による活動について確認しておく。</p> |
| <p>11 回</p> | <p>〈自然物を使って2〉</p> <p>○本時の目標 自然物を活用した造形遊びを行う。</p> <p>○本時の活動 ・前回使用した自然物の変化を観察し、使用上の注意点を確認する。</p> <p>・落ち葉や実を活用した様々な遊び（フロッタージュ、擦り絵、ローラー遊び）を体験する。</p> <p>・学んだ技法を組み合わせ秋のリースを制作する。</p> <p>○本時の学習成果：自然物を用いた造形遊びについて理解し、それらの技法を応用した作品を制作することができる。</p> <p>○予習と復習：教科書で自然物による活動について確認しておく。</p> |
| <p>12 回</p> | <p>〈切り紙～イメージの広がる折り紙〉</p> <p>○本時の目標 5 弁折を覚え、季節の装飾で活用頻度が高い星や桜の他、撫子等の応用制作と、それらを貼り絵として表現する技術を身に付ける。</p> <p>折り紙での見立て遊び、伝承折り紙について演習し、幼児期における折り紙遊びの意義について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・プリントと教員の説明を参考にして切り紙で花を表現する。</p> <p>・作った花を美しくレイアウトし、貼り絵にする。加筆して仕上げて良い。</p> <p>折り紙を使った見立て遊びについて教員が説明する。</p> <p>・伝承折り紙を教科書を参考に折る。 (かぶと、せみ、ボート、だましぶね、きょうりゅう、しゅりけん)</p> <p>・折り紙を画用紙に楽しくレイアウトし、作品に仕上げる。</p> <p>○本時の学習成果：5 弁折を覚え、季節の装飾で活用頻度が高い星や桜の他、撫子等の応用制作と、それらを貼り絵として表現する技術を身に付ける。折り紙の保育における意義を知り、発達に応じて援助するポイントを習得する。</p> <p>○予習と宿題：スケッチブックの未完成部分を確認し、次回までに仕上げておく。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|--|
| <p>13 回</p> | <p>〈作者の想いを想像しよう～構成遊びから〉</p> <p>○本時の目標 身近な素材を様々な方法で加工し、それらを組み合わせる構成遊びを行う。相互鑑賞を通し作者の想いや作品の特徴について考え、発表をすることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞紙を自由にちぎり、黒い画用紙に貼り付け構成遊びを行う。好きな部分に単色で着彩をしてアクセントをつくる。 ・ 新聞紙を決められた形に切断し、黒い画用紙に構成遊びを行う。好きな部分に単色で着彩もしくは好きな色の折り紙を貼っても良い。 ・ 相互鑑賞後、グループごとにそれぞれの作品の特徴について発表をする。 ・ 相互鑑賞～グループごとの発表を通して気付いたこと・考えたことをまとめる。 <p>○本時の学習成果：構成作品から作者の想いを汲み取ったり、その特徴について考察し、発表をすることができる。</p> <p>○予習と復習：発表のまとめができていない場合は仕上げておく。 教科書で構成遊びについて復習をしておく</p> |
| <p>14 回</p> | <p>〈紙コップ工作〉</p> <p>○本時の目標 紙コップを活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとにまとめた数の紙コップを配布。紙コップを加工せずに遊ぶ方法を考え、グループごとに発表する。 ・ 紙コップをハサミやカッターナイフで加工して、参考例を見ながら複数の工作を試す。学校が用意したほかの素材とミックスしても良い。 <p>○本時の学習成果：紙コップを活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。</p> <p>○予習と復習：次回の課題プリントに向けて授業内容の復習をしておく。</p> |
| <p>15 回</p> | <p>〈まとめ：幼児の発達段階と表現の多様性〉</p> <p>○本時の目標 グループで取り組む課題プリントを通し、本演習の内容について振り返ることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プリントで演習内容を振り返る ・ スケッチブックの整理をする。 ・ 本授業のまとめと、次年度の「幼児と表現Ⅱの指導法」への導入としてビデオ視聴する。 <p>○本時の学習成果：幼児の発達段階と、その表現の多様性について理解する。 本演習の内容を振り返ることができる。</p> <p>○予習と復習：提出物が揃っていない場合は仕上げて期日までに提出する。</p> |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|---------------|--|--|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 「幼児と表現Ⅱ」の指導法 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 関野智子 |
| 質問受付：E棟105研究室 | | e-mail：sekinotomoko@gmail.com | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標：<u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</u> 保育者として、幼児の造形表現活動の場で適切な指導と援助をするための知識と基礎技術の習得を目指す。</p> <p>1. 幼児の造形活動に対し適切な評価を行い、発達に応じた適切な援助ができる能力を習得する。 2. 造形遊び等を通して幼児とコミュニケーションを図り活動の様子を見守る態度を身につける。 3. 造形指導の適切な造形環境を設定し、支援する視点を学ぶ。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導するのにふさわしい価値基準と判断力を備え、適正な意見をもつ姿勢を涵養する。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>① 保育における位置づけ、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 準備と片付けまでを含めて授業内容として扱う。 ④ 解説、計画、製作等を通して学んだことを文章、イラスト、写真等で記録する。 ⑤ 予習、復習等について教員が説明する。</p> | | | | | |
| | 予習復習 | <ul style="list-style-type: none"> 課題に関する図書を調べたり、目的に沿って材料を調達したりする。 課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を理解し技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。 必要に応じて写真を撮り、記録をまとめる。 <p>※予習および復習の時間はそれぞれ45分を目安とする。</p> | | | | | |
| テキスト | 『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』編著：樋口一成 萌文書林 | | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>以下の5つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね3：3：2：1：1の比重で評価する。</p> <p>⑦ 幼児の造形活動に対する知識を身に付け、他領域との関連性・小学校の教科などとのつながりを理解した上で、発達に応じた適切な援助ができる能力を習得した。 ②造形遊び等を通して幼児とコミュニケーションを図り活動の様子を見守る態度を身につける。 ③造形指導の適切な造形環境を設定し、支援する視点を学んだ。 ④保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤幼児を指導するのにふさわしい価値基準と判断力を備え、適正な意見をもつ</p> | | | | | | |
| 注意事項 | 特になし | | | | | | |
| 授業回数別教育内容 | | | | | | | |

| | |
|--------|--|
| 1 回 | <p>〈オリエンテーション〉 〈共感しよう、褒めてみよう 1〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の教育目標、授業の進め方及び評価などについて理解する。 ・子どもの発達段階を考慮した声掛けについて考えることができる。 <p>○本時の活動</p> <p>〈これまでの活動の振り返り：「幼児と表現Ⅱ」から「幼児と表現Ⅱ」の指導法へ〉</p> <p>「幼児と表現Ⅱ」では、各種表現技法も織り交ぜながら幼児の発達段階を踏まえた表現を学習をしたことを振り返る。本科目では平面から立体・空間・地域・コミュニケーションへと表現を広げながら発達過程に配慮した子ども達への言葉掛けの演習、指導案作成、他領域との関連性、小学校以降の教科とのつながりについて考えていくことを説明する。</p> <p>〈共感しよう、褒めてみよう 1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で先生役と子ども役に分かれ、指定された制作を行う。先生役は発達段階に配慮した言葉掛け、制作意欲が高まるような声掛けを工夫する。子ども役は設定年齢に基づいた行動を心がける。 ・発表会：グループごとに前にでて取り組みの発表をする。先生役は子ども達に話すつもりで作品の講評を行う。子ども役は先生役に言われて嬉しかったことや気付いたことを発表を行う。 ・発表会を通して気付いたことをまとめる。 <p>○本時の学習成果：本科目の概要について理解できる。子どもの発達段階を考慮しながら先生としてどのように励まし、活動を支援したらいいのかを考えることができる。</p> <p>○予習と復習：教科書やプリントで子どもの発達段階について確認しておく。</p> |
| 2 回 | <p>〈共感しよう、褒めてみよう 2〉 〈造形遊びの指導案 幼児の発達と造形遊びの援助〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階を考慮した声掛けについて考えることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領における表現の内容と、就学以後の図画工作ならびに美術の指導要領を比較し、表現の領域にて幼児期に経験し身につけていく内容について、小学校以降の教科との関連のなかで理解することができる。 <p>○本時の活動</p> <p>〈共感しよう、褒めてみよう 2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回と役割を交代し、指定された制作を行う。 ・発表会：グループごとに前にでて取り組みの発表をする。先生役は子ども達に話すつもりで作品の講評を行う。子ども役は先生役に言われて嬉しかったことや気付いたことを発表を行う。 ・発表会を通して気付いたことをまとめる。 <p>〈造形遊びの指導案 幼児の発達と造形遊びの援助〉</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校～高等学校までの図画工作並びに美術の指導要領から、子どもの発達の特性和その過程を理解し、発達と生活の連続性の中で活動を行うことの重要性を確認する。 ・乳幼児の造形表現について、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」から確認する。 ・同じテーマの題材も発達過程により造形遊びでの「子どもの姿」「ねらい」がかわってくることをサンプルを通して確認する。 <p>○本時の学習成果：小学校以降の教科との関連のなかで表現の領域にて幼児期に経験し身につけていく内容について考えることの必要性を理解できる。</p> <p>○予習と復習：配付されたプリントを復習する。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|--------|--|
| 3 回 | <p>〈遊びを広げる 小麦粉粘土①〉</p> <p>○本時の目標 小麦粉粘土の作り方を理解し、小麦粉粘土を使った遊びを考案することができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員が小麦粉粘土の作り方と留意点を説明する。 ・ グループで小麦粉粘土を作り、どのように表現できるか試作してみる。また、幼児がどのような動き、発見をするか予想をしてみる。 <p>○本時の学習成果：小麦粉粘土の作り方、遊び方、留意点を体験的に知ることができる。</p> <p>○予習と復習：次回は小麦粉粘土による造形遊びの指導案と参考作品を作成するので、スムーズに作成できるよう指導案や活動例を調べておく。</p> |
| 4 回 | <p>〈遊びを広げる 小麦粉粘土②〉</p> <p>○本時の目標 グループ内で造形遊びのシュミレーションを繰り返しながら指導案を修正・完成させていく過程を通じ、保育を改善する視点を身に付けることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで小麦粉粘土を使った造形遊びの指導案を考える。 ・ グループ内で役割分担を決め、造形遊びのシュミレーションをし、必要があれば指導案をその都度修正していく。 <p>○本時の学習成果：活動のシュミレーションと指導案の修正を繰り返すことで、保育を改善する視点を身につけることができる。</p> <p>○予習と復習：次回模擬保育ができるよう 準備を進めておく</p> |
| 5 回 | <p>〈遊びを広げる 小麦粉粘土③〉</p> <p>○本時の目標 小麦粉粘土を使った模擬保育をグループごとに行い、保育者役としての振り返り、幼児役をしてみでの気づきをまとめる、具体的な改善策を考えることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬保育に向け各グループで最終調整をする。 ・ クラスメイトを幼児役にし、グループごとに小麦粉粘土を用いた模擬保育を行う。 ・ 教員による指導・講評。 ・ 活動を終えての気づきをワークシートにまとめる。 ・ 活動を終えての気づきを反映させ指導案に修正を行う。 <p>○本時の学習成果：模擬保育を通して気付いたことをまとめ、また改善が必要な部分については具体的な改善策を考えることができる。</p> <p>○予習と復習：ワークシート、指導案（修正版）を完成させる。</p> |
| 6 回 | <p>〈乳幼児のための玩具づくり 1〉</p> <p>○本時の目標 乳幼児のための玩具制作を通し、乳幼児の発達段階についての理解を深め、安全面に配慮した制作のポイントや留意点を確認する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2歳以下の子どもの発達段階について確認する。 ・ 感触を楽しめる玩具、並べて遊べる玩具など発達段階を踏まえた玩具づくりを行う。 <p>○本時の学習成果：乳幼児のための玩具制作を通し、乳幼児の発達段階について理解を深めることができる。</p> <p>○予習と復習：乳幼児の表現造形活動について調べておく。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|---------|--|
| 7 回 | <p>〈乳幼児のための玩具づくり 2〉</p> <p>○本時の目標 乳幼児のための玩具を使って模擬保育を行い、活動の流れを考えることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玩具を完成させる。 ・子ども役と先生役に分かれ実際に活動を試みる。長く楽しむための声掛けや遊びのバリエーションについて考える。 ・活動のねらいと活動の流れについてまとめる。 <p>○本時の学習成果：乳幼児のための玩具を使った模擬保育を通し、活動のねらいのポイント、活動を広げるための声掛けや遊びのバリエーションを考えることができる。</p> <p>○本時の学習成果：乳幼児を対象とした造形遊びの例を調べておく。</p> |
| 8 回 | <p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成①＊グループ制作〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの造形活動を絡めた壁面構成についてイメージできる。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育室で保育室と壁面構成について、教員が説明する。 ・模擬保育室の壁面構成の要素について、教員が説明する。→子どもの制作物による構成を念頭におくこと。 ・グループごとに担当となった月の壁面構成の内容を相談して計画を立てる。→次回指導案完成を目標に進めることを告げる。 ・壁面構成へと繋がる、季節の造形活動の案をまとめる。子どもの発達段階に考慮しながら試作を重ねてアイデアを練っていく。 <p>○本時の学習成果：本科目の概要について理解できる。保育室の状況と壁面構成を具体的にイメージできる。</p> <p>○予習と復習：季節の造形遊びについて調べておく。</p> |
| 9 回 | <p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成② 季節の造形活動を考える～指導案を作成する〉</p> <p>○本時の目標 季節の行事も念頭に置きながら造形活動を考え、壁面構成へとつなげていく計画を立てることで、子どもの生活や意識の流れを大切にしながら活動を組み立てていく視点を持つことができる。</p> <p>○本時の活動 壁面構成へと繋がる、季節の造形活動の案をまとめる。子どもの発達段階に考慮しながら試作を練り、指導案を作成する。</p> <p>○本時の学習成果：子どもの生活や意識の流れを大切にしながら造形活動を組み立てていく視点をもつことができる。</p> <p>○予習と復習：次回までに指導案を作成させておく</p> |
| 10 回 | <p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成③ 制作 (1)〉</p> <p>○本時の目標 子どもの発達段階を考慮しながら、壁面構成へつながる制作を進めることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁面構成のための制作をする。 <p>○本時の学習効果：子どもの発達段階を考慮しながら壁面構成へつながる制作を進めることができる。</p> <p>○予習と復習：制作が遅れている場合は、空き時間を利用して進めておく。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|---|
| <p>11 回</p> | <p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成④ 制作（2）〉 ○本時の目標 壁面構成へ繋がる制作を完了させることができる。 ○本時の活動 ・制作を完了させる。 ・模擬保育室への設置に向け準備を進める。 ○本時の学習成果：壁面構成へ繋がる制作を完了させることができる。 ○予習と復習：作品設置に向け、必要な材料の調達を確認し、不足しているものは調達する。</p> |
| <p>12 回</p> | <p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成⑤ 設置〉 〈アートでつながる地域と子ども①〉 ○本時の目標 制作物を活かした壁面構成をすることができる。 表現活動を「地域とのつながり」をテーマに考えることで、様々な領域や活動空間と関連させながら表現を考えることができるようになる。幼児の思考や動きを視野に入れた活動の構想を練ることができる。 ○本時の活動 ・模擬保育室への設置を行う。 ・「地域とのつながり」をテーマにした表現造形活動を考えることができる。 ○本時の学習成果：壁面構成を完成させることができる。 「地域とのつながり」をテーマにした表現造形活動について考えることができる。 ○予習と復習：教科書で地域とのつながりをテーマにした活動に関する内容を確認する。</p> |
| <p>13 回</p> | <p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成⑥ 相互鑑賞〉 〈アートでつながる地域と子ども②〉 ○本時の目標 全グループの指導案を確認しながら、模擬保育室の壁面構成を相互鑑賞し、それぞれの良さや工夫点、改善点などに着目して評価をすることができる。 「地域とのつながり」をテーマにした表現造形活動のながれについてまとめることができる。 ○本時の活動 ・全グループの指導案と壁面構成計画を印刷した冊子を参照しながら、模擬保育室にて相互鑑賞をし、担当グループについて制作物から壁面構成までワークシートに沿って評価をしていく。 ・ワークシートが完成したグループから「地域とのつながり」をテーマにした造形活動の流れについて考える。 ○本時の学習成果：相互鑑賞を通して保育を改善する視点をもつことができるとともに、幼稚園教育における指導上の留意点、評価の考え方に基づいて、活動を評価することができる。 ○予習と復習：次回の課題プリント作成に向けて学習内容を復習しておく。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|---|
| <p>14 回</p> | <p>〈アートでつながる地域と子ども③〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 グループごとに活動のねらい、内容、展開を模造紙にまとめる。 試作もしくは完成予想図を添える。 ○本時の流れ グループで考えた活動の流れを模造紙にまとめ、参考作品も制作する。 ○本時の学習成果 「地域とのつながり」をテーマとした幼児の造形表現活動を第三者に伝えるように掲示物としてまとめることができる。 ○予習と復習：模造紙へのまとめができていない場合には空いた時間に仕上げしておく。 次回の課題プリント作成に向け復習をしておく。 |
| <p>15 回</p> | <p>〈まとめ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 課題プリント作成を通し本演習のまとめをすることができる。 ○本時の流れ ・課題プリントにグループで取り組む。 ・各グループの「地域とのつながり」をテーマにしたポスター発表をみる。 ○本時の学習成果：幼児の深い学びが実現する保育を構想することができ、保育者としてふさわしい価値基準と判断力がつき、適正な意見を持つことができる。 ○予習と復習：スケッチブックを整理して提出する。 |

| 令和3年度教育計画 | | | | | | | |
|---------------|--|---|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 幼児と図画工作 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 関野 智子 |
| 質問受付：E棟105研究室 | | e-mail：sekinotomoko@gmail.com | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。</p> <p>感じること・発見することの楽しさを実感し表現する力、保育者に必要な図画工作の基本的な表現技術の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 五感を通して感じること・発見することの楽しさを実感し、表現できる。 2. 他者の表現から、その良さや工夫点を発見することができる。 3. 図画工作の基本的な表現技術を習得し、応用できる。 <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。</p> <p>また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準を知り、明確に意見表明ができる力を育成する。</p> | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の説明と、留意事項等を教員が説明する。 ・ 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ・ 演習の過程では、教員が個別のアドバイスを適宜行う。 ・ 準備から片付けまでを含めて授業内容とする。 ・ 予習、復習等について教員が説明する。 | | | | | |
| | 予習・復習 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の制作内容について参考図書などで調べておく。 ・ 時間内で課題が完成しなかった場合は次回までに課題を完成させる。 <p>※予習および復習の時間は45分を目安とする。</p> | | | | | |
| | テキスト | 特になし。 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>以下の5つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね①～③：④～⑤=5：1の比重で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①五感を通して感じること・発見することの楽しさを実感し、表現できる。 ②他者の表現から、その良さや工夫点を発見することができる。 ③図画工作の基本的な法則を理解し、習得して応用できる。 ④保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤視覚情報に対して保育者として価値・判断基準をもち意見表明ができる。 <p>専門的学習成果は上記①～③、汎用的学習成果は④、⑤に該当する。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | 特になし。 | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|--|
| <p>1 回</p> | <p>〈オリエンテーション〉 〈感じよう・発見しよう① 美しいものコレクション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価、受講の注意について理解する。 ○本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価、受講の注意についての説明。 ・学内を探索し、美しいと思った場所をスマートフォンで撮影。画像編集はトリミングのみとし、画像をメールで提出する。 ○本時の学習成果：感じること・発見すること・伝え合うことを基本とする本授業の進め方、評価、受講の注意について理解する。 ○予習と復習：課題プリント「日常生活の中で見つけた美」をまとめてくる。 |
| <p>2 回</p> | <p>〈感じよう・発見しよう② 構成美の要素とは〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> 「美しいもの」の画像について、似た傾向のものを分類する等の分析を通し、構成美の要素について発見していく。 ○本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・全員が撮影した画像を打ち出したカードをグループごとに配り、共通項によるグループ分けを行う。各グループの分析結果をクラスで共有する。 ・色の対比、リズム、大小、量感など、構成美の要素についての解説を聞く。 ○本時の学習成果：構成美の要素について発見、理解する。 ○予習と復習：次回は「風」をテーマにした表現活動を行うので、1週間「風」を意識して過ごしてみる。使用したい材料があれば準備しておくこと。 |
| <p>3 回</p> | <p>〈感じよう・発見しよう③ 風〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ別に「風」をテーマにした表現を試みる。 ○本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・「風」から受けるイメージをウェビングやドローイングで広げていく。ドローイングは鉛筆、水彩絵の具、パステル、ペン等を使用、それぞれの特徴を確認しておく。 ・工作室にある材料を活用し、どのような表現が可能かクラス全体で考えたのち、3～4グループに分かれ、それぞれ表現活動をする。 ・各グループの活動を相互鑑賞する。活動の中で風を感じたポイントがあれば記録のためにスマートフォンで各自記録写真を撮影する。今回撮影した写真の中で1番良いものにコメントを添え授業者までメールを送る（画像は次回印刷して全員に配布）。 ・前回の撮影による表現活動と今回の材料を組み合わせる表現活動を比較し、それぞれの特徴や長所・短所をまとめる。 ○本時の学習成果：①描画材の特徴を活かしながらアイデアスケッチを重ねたり、構想を練ることができる。②自分たちのイメージを表現するために材料を選ぶことができる。 ○予習と復習：次回は「光」を伝え合うので「光」について意識して1週間を過ごし、スケッチブックにメモや切り抜きなどを貼っておく。表現で使いたい材料があれば次回持参の参する。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|--|
| <p>4 回</p> | <p>〈感じよう・発見しよう④ 光〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 ・グループ別に「光」をテーマにした表現を試みる。 ○本時の活動：前回と同じ流れで進める。 ○本時の学習成果：前回と同じ。 ○予習と復習：第3回までの授業内容について振り返る。次回は水彩絵の具を使った表現を試みるので、汚れても良い服を準備しておく。 |
| <p>5 回</p> | <p>〈色彩の仕組み～色をつくってみよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 色之三原色、三要素、色相環について実際に混色を行いながら理解することができる。 ○本時の活動 ・色の仕組みとして三原色（赤・青・黄）、三要素（明度・彩度・色相）、色相環について教員が説明する。 ・水彩絵の具を使い、混色をしながら簡単な色相環を描く。 ・補色の効果、同系色の効果について制作を通して確認する。 ・グループごとにトランプ大のカードに混色して作った色を塗っていく。100枚以上作成。 ○本時の学習成果：色之三原色、三要素、色相環について実際に混色を行いながら理解することができる。 ○予習と復習：第6回はグループごとに作成した色彩カードを使った色遊びを行うので、完成していない場合は作成しておく。 |
| <p>6 回</p> | <p>〈色で伝えよう・形で伝えよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標 自作した色彩カードを用い、イメージを伝えることができる。また自分の誕生月のイメージを色彩カードを自由に加工・コラージュして伝えることができる。 ○本時の活動 ・グループごとに「重い」「軽い」「甘い」「辛い」等、言葉からイメージする色彩カードを選ぶ遊びを行う。 ・自分の誕生月のイメージを色彩カードを自由に加工。コラージュして伝えることができる。 ・相互鑑賞をする。 ○本時の学習成果：色と形の組み合わせでイメージを伝えることができる。 ○予習と復習：身近にある美しいと感じる広告、雑誌のページを観察し、どうしてそのような感じたのか考えてみる。 |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|----------------|---|
| | <p>〈五感を通して〉</p> <p>○本時の目標 触る、嗅ぐ、味わうなど、五感を通してしっかり観察することの大切さを実感する。基本的な水彩絵の具を用いた活動の流れを確認する。</p> <p>○本時の活動</p> <p>7 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の果物をイメージで描く。 ・実物を触る、嗅ぐ、味わうなど五感を通してしっかり観察し、水彩絵の具で描画する。 ・イメージで描いた作品と観察して描いた作品を比較し、それぞれの特徴について考察する。 <p>○本時の学習成果：対象をしっかり観察する方法、水彩絵の具を用いた活動の流れを知る。</p> <p>○予習と復習：次回以降、紐や古着を活用するのでもしも家に不要な紐・毛糸・古着があれば持参する。果物を描いた作品をネットで検索し鑑賞をする。</p> |
| <p>8 回</p> | <p>〈紐を使って〉</p> <p>○本時の目標 紐状のものを活用した表現ができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紐状のものによってできる表現について、実際に素材に触れながら、試行錯誤する。 ・グループごとに可能な表現について発表。 ・紐を使った自由制作を行う。 ・相互鑑賞する。 <p>○本時の学習成果：素材からイメージを広げ表現活動をすることができる。</p> <p>○予習と宿題：作品が完成していない場合は仕上げておく。 紐状のものを活用した造形遊びを調べておく。</p> |
| <p>9 回</p> | <p>〈キラキラ素材を活用して～ミラーシート・アルミ箔・セロファン〉</p> <p>○本時の目標 ミラーシートを活用した絵本やアルミ箔、セロファンを活用した作品を紹介し、反射する素材の魅力とそれを活用した造形遊びや玩具作りをする。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反射する素材を用いた造形遊びや玩具について紹介する。 ・様々な反射する素材を用いた作品を試作する。 <p>○本時の学習成果 保育の現場で取り入れやすい反射する素材に関する知識と扱い方を演習を通して身につける。それらの素材を活かした造形活動を考えることができる。</p> <p>○予習と復習：課題が完成していなければ次回までに仕上げておく。 反射する素材・透過する素材を用いた造形遊びを調べておく。</p> |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|-----------------|--|
| <p>10 回</p> | <p>〈版の表現①〉 ○本時の目標 紙版画、ステンシル、スタンプ等、様々な版表現を紹介、本時は夏をテーマにした紙版画と、次回行うステンシルの型紙を作成する。 ○本時の活動 ・ 教員が版画遊びについて説明をする。 ・ 夏をテーマにした紙版画の版を制作する。(刷るのは次回) ・ 白画用紙を魚のシルエットに切り抜く。切り抜いた形は台紙に貼り、スタンプ版画で装飾する。もう一方はステンシルの型にし、ステンシル技法で魚に仕上げる。 ○本時の学習成果: 版表現の特徴や多様性を理解し、幼児と活動をする際のポイントを確認する。スタンプ版画とステンシルの作品を仕上げるができる。 ○予習と復習: 作品を完成させておく。</p> |
| <p>11 回</p> | <p>〈版の表現②〉 ○本時の目標 紙版画の演習を通し、その特徴と指導上の留意点を確認することができる。 ○本時の活動 ・ 紙版画を刷る。準備から片づけ・残ったインクの処理までの流れを班で協力して行う。 ○本時の学習成果: 紙版画の特徴を知ることができる。版表現での準備から片づけまでのポイントを演習を通して学ぶ。 ○予習と復習: 飛び出す絵本やグリーディングカードなどを調べておく。</p> |
| <p>12 回</p> | <p>〈平面から立体へ① 折る・切り込みを入れる・巻く〉 ○本時の目標 折る・切り込みを入れる・巻くなどの加工をすることで平面が立体になることを理解する。 ○本時の活動 ・ 白画用紙を配布、糊やセロテープを使わず、ハサミ・カッターナイフのみを用いて立体作品をつくり、相互鑑賞をする。 ○本時の学習成果: 平面から立体をつくる方法を知ることができる。 ○予習と復習: 次回は新聞紙を使用するので、持参できる場合は準備しておく。</p> |

| | |
|---------|--|
| 13 回 | <p>〈平面から立体へ② 新聞紙スティックによる造形活動〉</p> <p>○本時の目標 新聞紙を角から細く巻いてつくった棒「新聞紙スティック」を用いた立体づくりを通し、棒状のものが自立するための最低条件、立体制作のポイントを学ぶ。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙で立体をつくる方法をグループごとに考える。 ・新聞紙スティックの作り方を知る。 ・新聞紙スティックを活用した立体制作を行い、相互鑑賞する。 <p>○本時の学習成果:新聞紙スティックを活用して立体表現ができる。平面素材で立体をつくる方法を知ることができる。</p> <p>○予習と復習:新聞紙を用いた造形遊びについて図書室等で調べておく。</p> |
| 14 回 | <p>〈緩衝材で表現しよう〉</p> <p>○本時の目標 初めて触れる緩衝材「エコプラス」の質感や特徴からイメージを広げ表現することができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い塔を作る活動を通し、緩衝材「エコプラス」の特徴を知る。 ・グループごとにエコプラスで自由に制作を行い、相互鑑賞をする。 <p>○本時の学習成果:素材からイメージを広げて表現することができる。立体制作のポイントを押さえることができる。</p> <p>○予習と復習:次回の課題プリント作成に向け授業内容の復習をする。</p> |
| 15 回 | <p>〈まとめ:子どもと共に感じ、発見できる保育者へ〉</p> <p>○本時の目標 課題プリントを通し、本演習の内容について振り返ることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習内容を振り返るまとめプリントを作成する。 ・スケッチブックの整理をする。 ・本授業のまとめと、後期から始まる「幼児と表現Ⅱ」への導入としてDVD『こどもこそ未来 (書籍:子どもとアート付録)』を視聴する。 <p>○本時の学習成果:子どもと共に感じ発見できる保育者像をイメージすることができる。本演習の内容を振り返ることができる。</p> <p>○予習と復習:提出物が揃っていない場合は仕上げて期日までに提出する。</p> |